

2 0 1 8 年度

事業報告

〔要約版〕

社会福祉法人麦の子会

目 次

2018年度の主な動き.....	3
I 法人運営.....	4
II 児童部門（幼児）.....	7
III 児童部門（学童）.....	17
IV 児童部門（生活支援）.....	26
V 成人部門.....	29
VI 社会的養護部門.....	39
VII 医療・地域・相談部門.....	40

2018年度の主な動き

① 2018年度の重点目標

1. 子どもと障害のある方、家族を支援できる専門性を身に付ける。
2. 職員重視
3. 職場の人間関係
4. 地域への貢献－共同の福祉
5. お客様見学者対応－ホスピタリティ（思いやり）をもって「マナー」＋「心」

② 麦の子館と新規事業

2018年3月、「麦の子館」が竣工し、「むぎのこ発達クリニック」、「ショートステイホームピース」、「むぎのこ保育園」がそれぞれ麦の子館に移転しました。また新規事業所として、「トリニティ」（生活介護事業）も開設しました。拠点が集約され、利用する方、職員の利便性が高まりました。麦の子館1Fの講堂はフリースペースとして、数多くの研修や、説明会、講演会、行事など非常に有効に活用されています。その他新規の事業所としては、ユスタバ（・放課後等デイサービス）を4月に開設、10月に老朽化したグループホーム「マーガレット」の新設移転を行いました。

③ 社会的養護の必要な子ども達の増加

ここ数年、社会的養護の必要な子ども達の支援が増加しています。麦の子会では法人型のファミリーホームを2棟設置、職員の里親、と受入体制を拡大しています。対応の難しい子どもが多く、チームアプローチが必須であり法人全体での支援体制の確立をすすめてきました。その中でもCSP（コモンセンスペアレンティング）は、2ヶ月に1度のペースで堀健一氏によるコンサルを受け、体系化された高い支援技術の構築を目指してきました。

④ 今後の展望と課題

組織の拡大に伴った、組織運営の在り方が常に問われています。収入が20億円を超えた場合の会計監査人設置は施行延期となりましたが、2018年度収入が20億を超えた当法人としては、今後も監査法人の手をお借りしながら、ガバナンス強化、内部統制の強化を推し進めていきます。また法令上の組織強化だけではなく、むらのない支援が全法人に行きわたるよう体制を整えています。

みかほ整肢園の指定管理も決定し、2019年度1年をかけての引き継ぎ業務があります。これまで培ってきた麦の子会の重層的な支援がさらに広がっていくために、今後は情報の発信や広報などに力点を置いていく必要があります。

I 法人運営

1. 理事会・評議員会の開催及び監事監査の実施

(1) 役員構成

- ① 理事：田村 元（理事長） 長内慶一郎 山崎千恵美
北川聡子 古家好恵 木村瑞穂
- ② 監事：末永仁宏 向谷地生良
- ③ 評議員：尾崎祐一 金田光夫 田澤泰明 中原明 長谷川寛治 藤井康弘
光増昌久

(2) 評議員会の開催

定時評議員会（2018年6月16日（土））

ア. 報告事項

- (1) 平成29年度事業報告

イ. 審議事項

- (1) 監事監査報告の件
- (2) 平成29年度計算書類承認の件
- (3) 理事選任の件
- (4) 定款変更の件

(3) 理事会の開催

第1回理事会（2018年5月25日（金））

ア. 報告事項

- 1) 事業報告 2) 人事報告 3) 理事長専決事項

イ. 審議事項

- (1) 前回議事録承認の件
- (2) 平成29年度事業報告の件
- (3) 平成29年度決算報告の件
- (4) 監事監査報告の件
- (5) 新評議員候補者選任の件
- (6) 新理事候補者選任の件
- (7) 定款変更の件
- (8) 定時評議員会日程の件
- (9) 定時評議員会議案の件
- (10) 事務決裁規程改定の件
- (11) 経理規程一部改定の件
- (12) 札幌市里親トレーニング事業受諾の件
- (13) ジャンプレッツ（就労移行支援）の工賃適正額検討の件
- (14) 運営規程変更及び重要事項説明書変更の件
- (15) 今年度理事会日程の件

第2回理事会（2018年7月27日（金））

ア. 報告事項

- 1) 事業報告 2) 理事長専決事項報告

イ. 審議事項

- (1) 前回議事録承認の件
- (2) 七飯町「すてきなクジラ」移管の件
- (3) 札幌市みかほ整肢園指定管理者応募の件
- (4) 「ユスタバ」定員変更の件
- (5) グループホーム（住居マーガレット）移転とそれに伴う運営規程変更の件
- (6) 平成28年度資金収支計算額一部修正の件
- (7) 経理規程細則改定の件

- (8) 重要事項説明書改正の件
- (9) 次回理事会日程の件

第1回臨時理事会（2018年8月31日（金））

ア. 審議事項

- (1) 札幌市みかほ整肢園指定管理者応募の件
- (2) 七飯町「すてきなクジラ」事業継続の件
- (3) 基本財産の追加並びに処分及び定款変更の件
- (4) グループホーム新マーガレット建築資金計並びに担保提供の件

第3回理事会（2018年9月20日（木））

ア. 報告事項

- 1) 事業報告 2) 臨時理事会報告 3) 理事長専決事項報告 4) 人事報告
- 5) 会計報告 6) 監事監査報告

イ. 審議事項

- (1) 前回議事録承認の件
- (2) 最低賃金改定に伴う時給引上げの件
- (3) 運営規程変更の件
- (4) 給与規程改正の件
- (5) 次回理事会日程の件

第2回臨時理事会（2018年11月20日（火））

ア. 審議事項

- (1) 社宅用土地建物購入の件
- (2) 新グループホーム（2018/11）用土地・建物購入の件
- (3) 修繕並びに設備等整備積立金取崩の件

第4回理事会（2018年12月21日（金））

ア. 報告事項

- 1) 事業報告 2) 臨時理事会報告 3) 理事長専決事項報告 4) 人事報告
- 5) 会計報告 6) 監事監査報告

イ. 審議事項

- (1) 前回議事録承認の件
- (2) 2018年度第1次補正予算の件
- (3) 西尾リプロセス協会事務局設置の件
- (4) 定款変更の件
- (5) 共同募金会助成金申請の件
- (6) 次回理事会日程の件

第5回理事会（2019年3月20日（水））

ア. 報告事項

- 1) 事業報告 2) 理事長専決事項報告 3) 人事報告 4) 会計報告
- 5) 監事監査報告

イ. 審議事項

- (1) 前回議事録承認の件
- (2) 2019年度事業計画の件
- (3) 2018年度第二次補正予算の件
- (4) 2019年度予算案の件
- (5) 西尾リプロセス研究所設置運営の件
- (6) サテライト型住居（ダニエルサテライト）付設の件
- (7) むぎのこ児童発達支援センター建物修繕工事に係る入札の件
- (8) 基本財産の追加及び定款変更の件
- (9) 居宅介護事業所むぎのこ福祉有償運送運賃変更の件
- (10) 規程類改正・制定の件
- (11) 運営規程改定の件
- (12) 職務専念義務免除の件
- (13) 当別町子ども発達支援センター見積合わせ応諾の件
- (14) 次回理事会日程の件

(4) 監査・指導の実施

実施者	監査実施日	監査項目
末永 仁宏 監事	①2018年 5月 19日 ②2018年 9月 10日 ③2018年 11月 9日 ④2019年 2月 28日	法人定款第18条の規定に基づき、2018年度事業に係る理事の業務執行の状況及び法人の財産の状況。
向谷地生良 監事	①2018年 5月 19日 ②2018年 9月 12日 ③2018年 12月 20日 ④2019年 3月 17日	法人定款第18条の規定に基づき、2018年度事業に係る理事の業務執行の状況。
札幌市 ・監査指導室 ・障がい福祉課 ・保健所	2018年 7月 10日・11日	・法人運営 ・むぎのこ児童発達支援センター ・児童デイサービスむぎのこ ・ハーベストガーデン ・ショートステイホームむぎのこ ・居宅介護事業所むぎのこ
札幌市 (集団指導)	2018年 11月 29日	障害者自立支援法・児童福祉法による全事業
札幌市児童相談所	2019年 10月 31日	・ガブリエルホーム ・ベータールホーム

(5) 助成・補助金

受入事業所	交付団体等	助成・補助金内容	助成額
ジャンプレッツ	社会福祉法人清水基金	2 tトラック	2,900,000円

(6) 主な施設・事業所整備事業

事業所名	工事名	請負業者	工事価格
むぎのこ児童発達支援センター	センター屋根張替工事	岩田地崎建設(株)	5,896,800円

(7) 入札(一般・指名)執行状況

入札名	落札業者名	契約金額
なし		

2. 事業運営

(1) 第2種社会福祉事業

- 1) 障害児通所支援事業の経営
- 2) 障害福祉サービス事業の経営
- 3) 小規模住居型児童養育事業の経営
- 4) 移動支援事業の経営
- 5) 相談支援事業の経営

(2) 公益事業

- 1) 診療所の設置経営
- 2) 日中一時支援事業の設置運営
- 3) 札幌市障がい児等療育支援事業
- 4) 当別町こども発達支援センター専門職員指導業務
- 5) 当別町こども発達支援センター発達支援専門員派遣業務
- 6) 認可外保育園の設置経営
- 7) 西尾リプロセス研究所の設置運営

Ⅱ 児童部門（幼児）

むぎのこ児童発達支援センター

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	46	46	46	47	46	50	49	49	50	50	50	50	48
北区	18	18	18	21	21	22	22	22	22	22	22	22	21
西区	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1
豊平区	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1
中央区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
手稲区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	68	68	68	72	71	78	77	77	78	78	78	78	74.3

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	927	1121	1120	1216	1142	1127	1358	1367	1152	1173	1246	1330	14,279

2. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

- ・発達支援プランは年2階(4月、10月)に作成した。
- ・遠城寺式・乳幼児分析的発達検査を用いて、アセスメントを行った。
- ・家庭訪問、面接の記録などで保護者にクラスに対しての意向、要望などの聞き取りを行った。
- ・個別支援計画を保護者に個別に説明し、同意を得た。
- ・半年間モニタリングを行い、評価した。

(2) 主な日中活動

- ・リズム、朝の会、散歩散歩、公園遊び(滑り台、ターザンロープ、水運び、水遊びなど)
- ・設定遊び(毛布ブランコ、布乗り遊び、王様、インディアン、音楽遊び)
- ・親子遊び(おんぶ遊び、わらべうた遊び、くすぐり遊び)
- ・山登り、アート(描画、季節の制作)、クッキング、プール、個別指導など

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

4月	入園式、お誕生会、カーペンターズ、避難訓練
5月	家庭訪問、お誕生会、クッキング、避難訓練
6月	遠足、バザー、お誕生会、避難訓練
7月	お誕生会、海水浴、避難訓練、クッキング
8月	I期終業式、II期始業式、お誕生会、避難訓練
9月	運動会、お誕生会、避難訓練、クッキング
10月	遠足、お誕生会、避難訓練、カーペンター
11月	お誕生会、生活発表会、避難訓練、クッキング
12月	もちつき、お誕生会、避難訓練、クリスマス会、II期終業式
1月	III期始業式、お正月会、お誕生会、避難訓練、クッキング
2月	豆まき、お誕生会、避難訓練
3月	ひなまつり、卒園感謝会、お誕生会、卒園式、避難訓練、クッキング、終了式・離任式

3. 給食提供

- ・1日1食 毎日提供
- ・園内の調理場にて調理して提供している。

- ・アレルギー食、偏食などに対応した。
- ・食生活が少しでも豊かな、楽しい時間となるように取り組んだ。

4. 医療体制

- ・むぎのご発達クリニックと連携し、発熱、怪我などの場合、瞬時に対応することができた。
- ・利用児への投薬にあたっては看護師が巡回した。

5. 施設設備管理業務

- ・火災報知器、消火器の点検(法定点検年2回)
- ・毎日の園内・園外危険箇所点検
- ・園内ワックスかけ年2回

6. 防災対策

(1)防火管理者の状況

職名	総合施設長	氏名	北川 聡子	選任届出年月日	2015年4月17日
----	-------	----	-------	---------	------------

(2)消防計画の状況

当初届出年月日	2015年4月17日	最終変更届出年月日	
---------	------------	-----------	--

(3)消防設備等の点検状況

区分	点検の箇所等			
	総合		外観・機能等	
点検年月日	30年7月3日	年月日	年月日	年月日
消防署への報告	有・無	整備点検記録の有無		有・無

(4)所轄消防署の立入検査状況

検査の有無	有・無
立入検査年月日	年月日
改善指示事項の有無	有・無
改善指示事項の内容	
上記の改善内容	

(5)避難場所の状況

第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	栄地区センター	予定地	栄町小学校
施設からの距離	50m	施設からの距離	600m
予定地までの所要時間	3分	予定地までの所要時間	8分

(6)非常災害に対する訓練の状況

実施年月日	実施訓練内容	実施年月日	実施訓練内容
30・4・27	避難・消火・通報・救出・その他	30・10・26	避難・消火・通報・救出・その他
30・5・18	避難・消火・通報・救出・その他	30・11・30	避難・消火・通報・救出・その他
30・6・29	避難・消火・通報・救出・その他	30・12・14	避難・消火・通報・救出・その他
30・7・27	避難・消火・通報・救出・その他	31・1・11	避難・消火・通報・救出・その他
30・8・31	避難・消火・通報・救出・その他	31・2・22	避難・消火・通報・救出・その他
30・9・21	避難・消火・通報・救出・その他	31・3・22	避難・消火・通報・救出・その他

(2) その他の防災対策

7. 職員配置状況

		(人)											
		4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
管理者		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
児童発達支援管理責任者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

事務	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
児童指導員	常勤	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
指導員	常勤	7	7	7	7	7	7	7	6	6	6	6	6
保育士	常勤	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
保育士	非常勤	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
合計		32	32	32	32	32	32	32	31	31	31	31	31

8. 実習生・介護等体験の受入

受入学校名		実習期間	人数
実習生	光塩短期大学	5/22	1人
	医療秘書福祉専門学校 医療保育科	5/23～28日	2人
	スポーツ&メディカル専門学校	6/20～29	3人
	光塩女子短期大学	7/10	1人
	専門学校北海道社会福祉大学校	7/26～31	2人
	札幌国際大学	8/23～30	2人
	医療大学	8/24	1人
	子ども学舎	9/10	1人
	札幌学院大学	9/18	1人
	子ども専門学校	9/20～27	2人
	医療大学	9/28～11/16	4人
	藤女子大学	11/27～12/3	3人
	大谷短期大学	2/18～2/20	2人
	文京大学	3/1	1人
北翔大学	3/7	1人	

9. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4/2	むぎのこ	法人研修	15人
4/9,16,23 5/7,14,28 6/11,19,25 7/13,23 8/6,20,27 9/10 10/1,22,29 11/19,26 12/10,17 1/7,12,21,28 2/4,25 3/4,11	むぎのこ	朝研修	15人
4/14	むぎのこ	法人研修	15人
4/27	むぎのこ	堀先生のコンサルテーション	5人
6/11	むぎのこ	センター研修	5人
6/11	むぎのこ・楡の会	交換研修	1名
6/21・22	むぎのこ	堀先生コンサルテーション	1名
7/23	むぎのこ	福島先生 SW 研修	5名
7/24	むぎのこ	フィンランドの子どもの育ちと教育、暮らし ペトリ・ニエメラさん	15名
8/10	むぎのこ	I期の振り返り	15名
8/17	むぎのこ	記録のとりかた(八木先生)	5名
10/30	むぎのこ	センター研修	15名
11/5	むぎのこ	コンサルテーション	1名
2/1		センター研修	4名
3/18	むぎのこ	吉田先生の合唱練習	15名

(2) 施設外研修・行政説明会への参加

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
6/30	CDS 北海道	北海道ブロック研修	12名
9/13	日本財団	ホーイス・タウンシンポジウム	2名
9/14～16		ホーイス・タウンモデル里親研修	2名
10/24	子ども部会・センター会議	全体研修会	15名
12/4		第6回ウェルトーク	1名
12/15	CDS 北海道	北海道ブロック研修	6名
1/24・25	福祉協会	発達支援部会研修	15名
2/21・22	福祉協会	全道施設長セミナー	2名

10. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
職員会議	毎月第1木曜	12回		管理者・児童発達支援管理責任者・児童指導員・保育士	16人	
クラス会議	毎週木曜	回		児童発達支援管理責任者・児童指導員・保育士	32人	
ケースカンファレンス会議	毎週月曜	42回		児童発達支援管理責任者・児童指導員・保育士	16人	
個別支援計画作成会議	前期・後期	2回		児童発達支援管理責任者・児童指導員・保育士	16人	
管理者会議	月1回	12回		管理者	1人	
児発管会議	月1回	12回		児童発達支援管理責任者	1人	
倫理・コンプライアンス委員会	年3回	3回		児童発達支援管理責任者	1人	
安全対策・感染防止委員会	年3回	3回		児童発達支援管理責任者	1人	
苦情処理委員会	年3回	3回		児童発達支援管理責任者	1人	
リスクマネジメント会議	毎月第2水曜	12回		児童発達支援管理責任者	1人	

11. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法

12. 評価と展望

- ・今年度も引き続き、発達支援では子どもたちへの支援の基礎として職員はコモンセンスペアレンティング、特に効果的な褒め方を重点的に行った。効果的な褒め方は、クラスでターゲットを決め褒める箇所を重点的に褒めて子どもの自己肯定感を高められるように行なっていった。職員のスキル練習、パートさんとのスキル練習を毎朝行う事で、現場で褒める回数が増えていった。
- ・家族支援では年齢ごとにコモンセンスペアレンティングをグループカウンセリングの中でお母さん向けに年3回行い、お母さん方への実践へも繋げた。またケースカンファレンスで応援計画を作成する事で、子どもとお母さん方のニーズ、支援方法が明確化され、振り返りをする事で今後の課題が分かりやすくなった。
- ・児童発達支援センターとして、地域の児童発達支援事業、保育園、幼稚園などとの研修を行い、参加する事で顔の見える繋がりが出来てきており、事業所での課題等も話し合えるようになってきている。
- ・書類整備では、内部監査を行っていたことで概ねクラスごとの書類は毎月、その場でチェックを行ったため、職員同士協力し合い整備していく事が出来た。
- ・来年度も、引き続き、コモンセンスペアレンティングを更に深め、パートさんを含めた全職員で効果

的な褒め方、また、子どもたちの支援を必要としている課題を援助計画を通してアセスメントし、子ども達への支援に活かしていく。

居宅訪問型児童発達支援むぎのこ

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
西区											1	1	1
中央区											1	1	1
計											1	1	

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計											2	2	

12. 評価と展望

- ・今年度から始まった事業で、集団活動に参加出来ない在宅の子どもへの児童発達支援を行った。
- ・訪問の中で、子どもの状態や体調に合わせた活動を行い、子どもらしい経験を積み重ねられるように工夫を行った。
- ・書類面では必要書類の確認を行い、整備していった。
- ・次年度も育みの関わりを大切にしながら、子どもらしい経験を重ねられるように、丁寧な関わりを行っていく。

保育所等訪問支援

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
北区	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
中央区	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1
計	12	12	13	13	13	13	13	14	14	14	14	14	13.3

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	0	1	1	1	0	2	1	1	2	0	3	0	12

12. 評価と展望

- ・アセスメントに基づき、客観的に訪問支援計画を作成した。
- ・訪問支援のニーズを把握し、訪問支援を実施した。
- ・ニーズに応じた、支援量の確保が困難。
- ・学校への保育所等訪問支援のニーズはあるが、人的保障が得られず対応は困難。

児童デイサービスむぎのこ (児童発達支援事業)

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	29	25	28	29	27	31	30	30	32	31	32	32	29.6
北区	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3.41
西区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.08
中央区	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4.75
措置	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	1.25
計	38	34	37	39	37	40	39	39	41	41	42	42	39.09

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	184	201	207	209	180	211	262	262	228	226	256	287	2,713

12. 評価と展望

- ・1, 2歳児の混合のクラスで、それぞれの年齢に合わせて保育を行った。
- ・保育では、CSPの「育み」を大事にして、一人ひとりに合った効果的な褒め方を行った。
- ・職員が効果的な褒め方を頻繁に使い、保護者にも褒めることが多くなり、母親と子どもとの関りが取りやすくなった。
- ・子どもや母の対応について困難な場合は、マネージャーに相談して解決に繋げた。
- ・安全のためのマニュアルに沿って実行し、大きな事故はなく子どもの安全を守ることができた。
- ・家族支援では事業所内相談支援を行い、保護者の精神面を支えていった。
- ・より良い支援が出来るよう、部下にSVを定期的に行い、コミュニケーションをとっていった。
- ・書類の締め切りは守ることができた。
- ・事業所の安全面と防災面の管理をしていった。
- ・感染防止についての研修を受け、法人全体の感染症流行状況を把握し、防止のための対策を行なった。
- ・職員・パート職員のCSPを使って、具体的に褒めることが増え、また落ち着いてから戻るなど適応行動が増えた。これからもCSPを取り入れて、子どもをたくさん褒め、1・2歳児のクラスとしての育みの中でも、沢山可愛がって安心・安全な支援を行っていく。

プレイ（児童発達支援事業）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	10	10	10	10	10	10	11	11	11	11	11	11	10.5
北区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
計	12	12	12	12	12	12	13	13	13	13	13	13	12.5

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	199	244	245	256	212	238	266	264	226	222	254	299	2925

12. 評価と展望

- ・療育面では、CSPを用いて肯定的な関わりを職員・パートさんと一緒に行った。
- ・子どもたちにも効果的なほめ方を用いて肯定的なかかわりをする事ができた。
- ・一年間大きなケガや事故もなく療育をおこなうことができた。
- ・グループカウンセリングや父親参観日を通して、母や父にCSPを伝えることができた。
- ・運営面では、安定した利用率を保つことができた。

ヨシア（児童発達支援事業）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
北区	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
措置	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	227	253	260	258	220	213	261	263	221	205	221	261	2863

12. 評価と展望

- ・ヨシアは年長児のクラスで、療育ではC S Pを取り入れていった。効果的な褒め方を多く用いることで子ども達は意欲的に行い、適応行動をとる子どもが多く見られた。又、公園での集合等、様々な場面において予防的教育法を徹底して行うことで、子どもたちが理解しやすく、適応行動をとることができた。療育の中で、職員・パートさんが効果的な褒め方を頻繁に用い、子どもたちの適応行動を増やすことができた。
- ・安全のためのマニュアルに沿って実行し、大きな事故はなく子どもの安全を守ることができた。
- ・家族支援では月1回事業所内相談支援を行い、保護者と情報を共有し、療育に活かしていった。
- ・より良い支援が出来るよう、職員、パートさんとS Vを定期的に行い、より良い療育を行えるようにしていった。
- ・研修は内部・外部研修に積極的に参加し学んでいった。
- ・内部監査の再チェック日までに書類の締め切りは守ることができた。
- ・事業所の安全面と防災面の管理をしていった。
- ・アレルギーのある子ども1名については、マニュアルに沿って対応し、子どもの命を守ることができた。
- ・感染防止についての研修を受け、法人全体の感染症流行状況を把握し、防止のための対策を行なった。
- ・年長活動としてジャガイモ植え、草取り、芋ほり、カレークッキングを行った。また、雑巾がけ、玄関履き、花の水やりの活動を行った。卒園制作として鬼のお面制作、描画を行い、1月からは年長リズムを行った。
- ・保護者アンケートを実施し、改善点を把握し公表していった。

シーランチ（児童発達支援事業）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	9	9	9	9	9	9	10	11	12	12	12	12	10.25
北区	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5	5	4.16
措置	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1
計	13	13	13	13	13	13	14	16	17	17	18	18	14.8

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	167	175	189	204	159	159	179	206	166	214	215	266	2299

12. 評価と展望

- ・新年度に新たなメンバー構成で始まったクラスだったが、0～2歳から当法人で療育を受けている子どもばかりクラスだった為、母子共に環境の変化にも早い段階で適応して、安心して登園することが

できていた。また、職員が CSP での関わりを行い、受容や共感、励ましを基本として、すでにできていることを毎日効果的に褒めることで、信頼関係を築くことができ、子ども達の自己主張や意欲を引き出すことができた。

- ・後半は、療育を受けてきていない子どもが立て続けに 5 人途中入園し、クラスの雰囲気が大きく変わり戸惑う職員もいたが、毎日の打ち合わせや振り返り、SV を通してアセスメントや情報を共有し、問題を解決して、クラス運営や発達支援に繋げて行くことができた。
- ・年間を通して他の年長クラスと交流することで、協力し合って幅広い活動を行なうことができた。
- ・保護者への事業所内相談支援を定期的に行い、小学校就学への不安や緊張などの悩みを聞き、保護者や子どもの気持ちに寄り添って、必要に応じて情報提供をしながらサービス提供に繋げていった。
- ・卒園後は多くが放課後等デイサービスの利用を予定しており、引き続き CSP の社会スキルを身につけてどの人とも良い関係を築いて社会の中で暮らしていけるように練習していく。また、職員や子ども同士の関係性の中で癒され、元気になって暮らしていけるように支援していきたい。

セーボネス（児童発達支援事業）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	8	9	10	11	12	13	13	13	13	13	13	13	141
北区	2	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	39
措置	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	7
計	10	12	13	14	15	17	17	17	18	18	18	18	187

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	108	149	156	182	184	179	230	239	207	244	234	249	2361

12. 評価と展望

- ・療育面では、CSP を用いて肯定的な関わりを職員・パートさんと一緒に行った。
- ・職員・パートさんと SV を行うことと、毎日のセットアップ・フィードバックをする事を通して、関係性を良くし、連携して療育を行うことが出来た。
- ・グループカウンセリングや父親参観日を通して、母や父に CSP を伝え、練習してもらい、家庭でも CSP 特に効果的に褒める事が出来る様に伝える事が出来た。
- ・運営面では、4月の契約数や利用率が少なかったため、3歳児クラスから2・3歳児クラスにし、2歳児も受け入れた。毎月のように契約と利用が増え、運営面も安定してきた。

スタディ（児童発達支援事業）

1. 利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	10	9	11	11	11	11	11	13	13	13	13	12	11.5
北区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2
措置	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	13	12	15	15	15	15	15	15	15	15	15	16	14.7

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	150	165	181	190	170	145	188	212	156	168	182	210	2117

12. 評価と展望

<運営面>

- ・職員の産休・退職に伴い法令順守して運営できるよう職員配置を整えた。
- ・内部監査を毎月行うことで、職員の不備がないか定期的に確認・整備することができた。
- ・職員研修に積極的に参加し、知識と技術の両面を高める事ができた。
- ・職員間でスーパーヴィジョンを定期的に行い、支援の困り感を汲み取り、対応策を練習しながら、よい取り組みを褒めて励ます関りをする事ができた。
- ・事業所の転居を行った。

<療育面>

- ・年中児童の発達に合わせて日々の活動を基本にしながら様々な活動を行い、スモールステップで子ども自身が達成感を持てるように活動を設定した。
- ・年中同士の事業所で交流する機会を多く設け、合同でリズムをしたり、鬼ごっこをするなど大きなグループでの経験をしたり、支援が必要な児童に対して手厚く対応することができた。
- ・C S PのCSALE、効果的な褒め方を中心に、子ども達を肯定的に励まし、自信をつけて活動に参加すること、仲間を意識し、関りを持って遊ぶ場面を作っていく事ができた。

スタディ（児童発達支援事業）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	10	9	11	11	11	11	11	13	13	13	13	12	11.5
北区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2
措置	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	13	12	15	15	15	15	15	15	15	15	15	16	14.7

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	150	165	181	190	170	145	188	212	156	168	182	210	2117

12. 評価と展望

<運営面>

- ・職員の産休・退職に伴い法令順守して運営できるよう職員配置を整えた。
- ・内部監査を毎月行うことで、職員の不備がないか定期的に確認・整備することができた。
- ・職員研修に積極的に参加し、知識と技術の両面を高める事ができた。
- ・職員間でスーパーヴィジョンを定期的に行い、支援の困り感を汲み取り、対応策を練習したり、よい取り組みを褒めて励ます関りをする事ができた。
- ・事業所の転居を行った。

<療育面>

- ・年中児童の発達に合わせて日々の活動を基本にしながら様々な活動を行い、スモールステップで子ども自身が達成感を持てるように活動を設定した。
- ・年中同士の事業所で交流する機会を多く設け、合同でリズムをしたり、鬼ごっこをするなど大きなグループでの経験をしたり、支援が必要な児童に対して手厚く対応することができた。
- ・C S PのCSALE、効果的な褒め方を中心に、子ども達を肯定的に励まし、自信をつけて活動に参加すること、仲間を意識し、関りを持って遊ぶ場面を作っていく事ができた。

ライオン（児童発達支援事業）

1. 利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	14	15	15	15	15	13	13	13	13	13	13	13	13.75
北区	2	2	2	2	3	4	5	5	5	6	6	6	4
計	16	17	17	17	18	17	18	18	18	19	19	19	213

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	172	230	241	260	236	212	271	274	208	237	235	249	2825

12. 評価と展望

- 療育面では、昨年度からの持ち上がりの子どもたちが多く、子どもたちの仲間意識が増し、関り方も一方的な関りから相手を意識した関り方に少しずつ変わり、子どもたちの成長が見られた。しかし、関りが増えたことにより、仲間外れにしたり、喧嘩も増え、CSPの教育法がとても大切だと感じた。また、並行通園の子どもも増え、幼稚園への見学や連携も行った。
- CSPでの関りを意識し行った。育みや効果的な褒め方や予防的教育法を基本とし、活動の節目で予防教育を行うことで、子どもたちの適応行動が増え、出来ることが増えたように感じる。しかし、体も大きくなり、活発になり、子ども同士の関りも増えると問題行動も増え、問題行動を正す教育法をすることもあった。日々、CSPで関わることで、子どもたちも素直に受け入れることが出来たように感じる。
- 家族支援では、単独通園の家庭が多く、グループカウンセリングの出席も少なく、お母さんたちへの呼びかけをもっとにも増やしていけばよかったと感じる。事業所内相談支援等で、お母さんたちと面談をするなど工夫したり、難しい家庭へは電話連絡を密にとり、お母さんとコミュニケーションをとるなど行った。
- 運営面では、書類整備は内部監査を目指して、書類整備を行っていることもあり、大きな混乱もなく、進める事が出来た。

ライオン（児童発達支援事業／放課後等デイサービス〈重心対応〉）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	7	7	7	7	7	8	8	10	10	10	10	10	101
北区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
手稲区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
措置	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	11	11	11	11	11	12	12	14	14	14	14	14	12.4

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	106	132	136	131	124	121	156	143	129	129	132	142	1581

12. 評価と展望

- 今年度も引き続き、療育ではコモンセンスペアレンティング、特に効果的な褒め方を重点的に行った。効果的な褒め方は、クラスでターゲットを決め褒める箇所を重点的に褒めて子どもの自己肯定感を高められるようになっていった。職員のスキル練習、パートさんとのスキル練習を毎朝行う事で、現場で褒める回数が増えていった。
- 書類整備では、内部監査を行っていたことで概ねクラスごとの書類はその場でチェックされるので大きな混乱なく終えることが出来た。職員同士協力し合い行った。
- 来年度も、引き続き、コモンセンスペアレンティングを更に深め、パートさんを含めた全職員で効果

- 的な褒め方、ターゲットスキル、スキルブックを使う、効果的に取り入れていきます。
- 子どもたち1人1人の視診や医療的ケアの流れをボードに書いていきながらみんなで全員のながらを把握する。

むぎのこ大通教室

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	2	2	2	3	4	4	4	4	4	4	4	4	3.4
南区	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1.8
中央区	9	9	9	9	9	12	12	12	12	12	12	12	16
計	12	12	13	14	15	18	18	18	18	18	18	18	16

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	143	142	203	221	216	206	251	258	203	213	222	236	2514

12. 評価と展望

- ・本体と離れているので、安全には常に気を付けて療育を行なった。大きな事故や怪我がなかった事は良かった。
- ・異年齢クラスだったが、集団の中で個々に合った関わりを行う事ができた。
- ・社会的養護の家族が多い1年だった。家族の困り感や子どもの気持ちに共感して関わった事ができた。
- ・保健センター、児童相談所、家庭児童相談所、母子生活支援施設など様々な機関と情報共有を行う事ができた。

Ⅲ 児童部門（学童）

児童デイサービスむぎのこ（放課後等サービス）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	23	23	23	23	24	24	24	24	24	25	25	25	23.9
北区	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
中央区	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0.5
手稲区	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
措置	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1.7
計	43	43	43	43	44	44	44	44	44	45	45	45	44

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	227	284	310	287	262	247	310	312	274	273	287	286	3956

12. 評価と展望

- ・異年齢クラスなので、年齢や発達に合わせた活動を意識した。

- ・CSPをベースに、予防的教育法、効果的な褒め方を意識して関わりを持った。
- ・子どもたちが大人の指示を意識することが出来るように、具体的な指示・声掛けを意識した。
- ・ショートステイ、ヘルパー、クリニック等と連携し、子どもの発達や家族支援など多面的な視点で行った。必要に応じて家族支援会議や、相談室との連携をとり、その家族に何が必要であるかを話し合った。
- ・関係機関連携会議を1回行い、学校と事業所との共通の支援方針を話し合った。また、必要に応じて、学校のクラス担任と電話連絡や連絡帳を通じたやりとりを行い、学校や事業所での様子を話し合い、本児の困り感など共通認識し、支援の方向決めを行った。
- ・職員も子どもも日々のスキル練習を行うことで、効果的な褒め方を行う場面を増やした。また、職員全体で子どもの褒めるポイントもクラス会議等で話し合った。
- ・次年度も異年齢クラスになり、新1年生も入るので、活動の幅を広げ、新生活も始まるのでSCALEを意識しながら関わっていく。

児童デイサービスジャンプレッツ（放課後等デイサービス）

1. 利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
北区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	225	247	253	253	226	199	261	261	261	229	231	240	2886

12. 評価と展望

- ・今年度は小学4年生から高校1年生までの15名のグループで活動を行った。
- ・保護者や本児の様子からアセスメントした個別支援計画を軸に、子どもたちが社会に出て行くためにはどんなことが必要かを考えた支援を行っていった。
- ・支援方法として、CSPをベースに、子ども一人一人の状態、発達・発育状況、障害程度や家族、家庭環境など、ケースカンファレンスやクラス会議を通して周知・検討を行い、職員集団でどういう関わりを大切にしていけるかを話し合いながら、方針を決めていった。
- ・CSP初級講座の研修に職員を2人、受講させることが出来た。CSPの講座を受講する事で、CSPをステップ通りに使える職員を増やし、子どもと関わる時の共通言語として、用いることが出来るようになっていった。また、パート職員に対しても、毎日の打ち合わせ後にスキル練習を行うことで、職員と共通した方法で子どもたちと関わることを目指した。
- ・実際にCSPの効果的な褒め方、予防的教育法を使い、子どもたちの日々の行動を褒めたり教えることが少しずつ出来るようになってきている。
- ・職員同士でSV体制を作り、そのSVを行いながら、FBや子どもへの関わり方など細かいところで職員の情報共有などを行う。
- ・クラス全体で年齢と発達の差が大きく、その子ども一人一人に合った対応を設定していく必要があったが、活動や食事など場面ごとに、各子どもたちに合った対応をスタッフ全員で考え決めていった。甘えを受け止め、自己主張を引き出す事、また友達を意識して一緒に遊ぶ事を意識して療育を行っていった。
- ・給食では、偏食のある子、アレルギーのある子がいたので、十分に配慮し、法人で作られたアレルギー防止マニュアルに沿って、食事の提供を行う、対応を行った。偏食の子も改善が見られ、安全に給食を提供出来た。
- ・CSPは朝の打ち合わせ後のスキル練習を行う事で、職員の学びにつながり、療育の場面で生かすことが出来てきている。特に効果的なほめ方をパート職員も含め全員で行う事で、子ども達の適応行動が少しずつ増えてきている。
- ・運営面では、利用率は平均して安定していた。書類面も法人内で毎月内部監査を行い他事業所の目で書類をチェックしてもらうことで、気づかなかったミスもチェックする事が出来、より正確な書類整備ができた。
- ・発達支援のほか、相談課と連携し、保護者へのグループカウンセリング、CSP講座、個別カウンセ

リングや毎月の母親向けの学習会、毎週土曜日にむぎパパの会というパパ向けの学習会、グループカウンセリングなどの支援も行った。

プレイ（放課後等デイサービス）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 10 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
北区	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
西区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
措置	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
計	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	

(2) 利用延べ人数

(単位 10 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	237	225	213	262	211	205	257	252	181	176	198	208	2625

12. 評価と展望

- ・1年生の事業所で、社会的養護性や特性に合わせた配慮等、環境に配慮しなければならない子供たちが多かったのものでそこで環境の試行錯誤しながら取り組んでいった。
- ・また、東区、北区との学校とも連携を取りながら、関係機関同士で家庭状況の把握、こどもの支援に生かすことが出来ていた。
- ・要保護児童対策地域協議会に挙げるケースもあり、東保健センターの家庭児童相談室との連携も行う事が出来た。
- ・クラスでは公園遊びなどで体を動かすことを中心に行い、こどもたちとの信頼関係構築を基礎に、そのなかでも指示に従う社会スキルを中心にこどもたちに学んでいった。
- ・建物の二階であることで、段差が高い階段や行事等の物が押し入れにある状態であったため、刺激に反応してしまう事や、身体的に発達が遅れているこどもたちもいたのでそこでの配慮、リスクマネジメントに苦労した。

ライオン（放課後デイサービス）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 10 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	24	24	26	20	27	28	24	24	33	29	29	27	26
北区	2	2	2	3	3	3	1	0	2	1	3	2	1
白石区	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	2	0.5
手稲区	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	27	26	23	28	30	32	26	24	34	31	33	31	28

(2) 利用延べ人数

(単位 10 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	194	218	246	218	230	201	243	279	212	242	233	248	2764

12. 評価と展望

- ・2年生のクラスということもあり、CSPをベースにした療育を行った。

- ・職員も毎日、CSPの効果的な褒め方、予防的教育法を練習し行い、職員がパートさんにも毎日スキル練習を行い、子ども達を褒める習慣が出来て、子ども達も誉め言葉を受け入れるスキルが身についてきた。
- ・学校、保護者と連携をとり、登校支援を行うことが出来た。
- ・活動は月ごとにクッキング、製作等、時々変化をつけて設定し、子どもたちが協力しあい楽しむ経験を増やすことが出来た。また、活動前に必ず予防的教育法、活動後は効果的な褒め方で褒めることを行い、子どもたちが社会スキルを身に付けることが出来るよう支援を行った。
- ・クラスの子ども達に発達にばらつきがあったが、適応行動をとった時に効果的に褒める、スキルブックを用い視覚支援を行うことで、発達に関わらず適応行動が増える様子が見られた。又、お母さんたちとの面談、子どもとの面談を行い、支援の個別化を行うことが出来た。
- ・園内研修や園外研修など様々な研修に参加し、自分の専門性を広げていく事が出来た。

ヨシア（放課後等デイサービス）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	28	31	32	32	30	30	30	30	31	31	31	31	30.5
北区	5	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6.7
白石区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	34	38	40	40	38	38	38	38	39	39	39	39	38.3

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	346	471	452	434	391	347	483	472	343	400	402	414	4955

12. 評価と展望

- ・小学校3年生のクラスとして活動を行った。前年度から継続して利用している子どもがほとんどだったので大きな変化はなかった。学習支援では学校によって宿題の量が違い難しい課題が出ているところもあったので個別に対応していった。一人一人が達成感や自信を持てるように回答を一緒に考えて教えていった。
- ・活動は室内活動をしたいという子どもが増えたので日々やりたいことを聞きながら室内に残って活動をするグループと屋外で活動するグループに分かれて活動を行った。設定活動の前には必ず指示に従うやいいえを受け入れるスキル練習を繰り返し行っていたこともあり、子どもたちも大人の話聞いて行動するなどの適応行動が増えていった。
- ・発達支援プランは年2回作成し、子どもの年齢や発達に合わせて社会スキルを身に付けられるように支援を行った。また、保護者のニーズに合わせてショートステイやヘルパー、相談室、学校など関係機関と連携して支援を行うことが出来た。
- ・運営面では6時間授業が増えたこともあり登園人数が少ない曜日もあったが、1年間を通して安定した登園率を保つことが出来た。書類面では毎月内部監査を行ったので、職員同士協力して整備する事が出来たので継続していきたい。
- ・次年度は新3年生のクラスになる。新しい児童が契約して利用となるのでクラス会議やケースカンファレンスなどの会議を通してアセスメントをし、チームで利用者や家族を支えていきたい。また、子どもたちが学校など社会で成功するためにスキル練習を日々行っていきたい。

シーランチ（放課後等デイサービス）

1. 利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	10	12	12	13	13	13	13	13	13	13	13	13	12.6
北区	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7

手稲区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	18	20	20	21	21	21	21	21	21	21	21	21	20.6

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	0	0	0	0	0	0	205	209	152	180	160	66	4955

12. 評価と展望

- ・多学年が通うクラスで発達の違いあり、新入生は環境になれずに落ち着かない場面がみられたが、大人が肯定的に関わることで、徐々に場所に慣れてきて気持ちを素直に出せるようになってきた。
- ・C S Pでは、社会スキルの練習を行なう際に発達に合った言葉を使い理解しやすいように配慮した。スキル練習を楽しく取り組む事ができ、適応行動に繋がっていった。引き続き継続して行なっていくことが重要である。
- ・活動はプラ板制作やクッキング、散策散歩等、室内外の活動をすることで、楽しんで活動に参加する事ができていた。また、職員はバディ確認をしながら、安全に療育することが出来た。
- ・ケースカンファレンス、クラス会議等で子どもの実態把握し、職員同士が一貫したアセスメントを念頭に置き、適切な関りや声掛け等を行っていく。また、職員同士の連携を大事にし、子どもの人権を尊重できるように、C S PのS C A L Eを特に大事にして関わっていく。

チェリーブLOSSAM (放課後等デイサービス)

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	31	32	33	33	33	33	32	33	34	34	34	34	33
北区	7	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7.9
豊平区	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.9
中央区	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0.5
手稲区	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1.4
計	42	44	45	45	45	43	42	43	44	44	44	44	43.6

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	342	329	415	394	312	355	410	397	339	325	365	239	4222

12. 評価と展望

- ・中・高校生の事業所として療育を行った。前年度から引き続き契約の子が多く、活動の見通しが持てている子が多い。新たに契約した子や、特別に配慮が必要な子など、環境になれるために時間がかかる子にはその都度個別での対応を行った。
- ・不登校の支援があるため、午前中から英、国、数を中心とした学習を行った。個々の学力にばらつきが大きい為難しい面もあったが、発達に応じた学習を行なう事が出来た。
- ・特に冬場には、除雪などの奉仕活動を積極的に行った。
- ・中学校3年生の子を中心に、週に一回の個別面談を行うことで、進路などへの不安の聞き取りや社会スキルの練習などを行うことができた。
- ・朝の会、ミーティングに社会スキルのスキル練習を取り入れ、毎日の練習を行った。
- ・今後は、思春期に入り様々な悩みを抱えた子どもや、それぞればらばらの発達課題を抱える子どもも多くなってきているため、勉強課題や教えていく社会スキルなど、その子の発達段階に合わせて職員が一致して関わっていけるように支援をしていく。

スカイブルー (放課後等デイサービス)

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	36	38	38	38	38	38	37	37	37	37	39	39	34.4
北区	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	0.5
石狩	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	43	45	45	45	45	45	44	44	44	44	46	46	40.9

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	416	471	506	398	344	451	498	436	363	374	403	379	5039

12. 評価と展望

- ・スカイブルーは小学校1年生から中学1年生までの多学年が利用契約しているため、朝の会や設定活動を発達や学年でグループ分けをし子ども達が自分らしく活動出来るように計画し行なった。多学年ということが子ども達が自分らしく活動しながらも意見がぶつかった時には適切に意見を言ったり、協力して掃除や設定遊びを行なう事が出来ていた。
- ・半数以上が不登校の為、授業参加、学校の行事練習や当日のサポートを子どもに合わせて保護者と学校と連携し行なったため子どもたちが明るく見通しを持って登校する事が出来ていた。
- ・コモンセンスの効果的な褒め方を中心に予防的教育法、問題行動を正すを取り入れ療育を行なった。職員同士も朝の打ち合わせ後に練習し子どもたちがすでに出来ていること、ターゲットスキルを中心に効果的な褒め方を多く行えるように取り組んだ。
- ・次年度は、今年度よりも学習時間、内容の見直しをする事で充実させていきたい。また、見学学習などを多く取り入れていく。
- ・家庭で子ども達が安心して過ごす事が出来るように保護者への個別のコモンセンスのセッションを行なう。

トゥモロー（放課後等デイサービス）

1. 利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 10人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	14	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	13	12
北区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2
計	16	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14

(2) 利用延べ人数

(単位 10人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	211	257	257	252	228	215	264	265	217	238	229	147	2780

12. 評価と展望

- ・CSPを職員で意識して行っていて、特に効果的に褒めることがクラス全体で増えていた。
- ・クラスの問題を後半は特にマネージャーにセットアップして解決することが出来た。
- ・パニックが多い子どもについて対応がクラスで難しいときに助けを求めたり相談しながら子どもが安心して落ち着けるように連携して対応した。
- ・クラスのお母さんグルカンを1回しか開催しなかったもので、次年度は年数回をめざして計画していきたい。
- ・水遊びは行ったが、プール活動が出来なかったので次年度はプールも計画したい。
- ・キャンプやスキーなど季節に合わせた活動が出来て活発に参加出来ていた。

・SVが定期的に行うことが難しかったので、次年度は計画的に行いたい。

グリーン（放課後等デイサービス）

1. 利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	25	24	27	26	27	24	26	26	29	26	30	28	26.5
北区	12	12	11	12	11	12	11	13	10	10	13	11	11.5
計	37	36	38	38	38	36	37	39	39	36	33	39	40.3

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	389	448	427	426	393	337	473	461	358	405	425	424	4966

12. 評価と展望

- ・4. 5. 6年生という学年が異なるクラスではあったが、徐々に関係性が作られてきて、学年関係なく関わることが出来ていた。
- ・CSPをベースにした療育を行った。
- ・職員、パートさん共に、CSPの効果的な褒め方や、予防的教育法等のスキル練習を行い統一した療育を行った
- ・学校との連携を行いながら、学校支援に入り学校生活や、行事のサポートを行う事が出来た。
- ・活動は月ごとに、クッキング、制作、設定遊び等を取り入れ、偏った療育にならないように変化をつけるように心がけ、様々な経験が出来るように心がけた。
- ・一年を振り返り、始めは学年ごとで固まって関わっていた子ども達が夏休みの長期休暇活動から、学年を超えて関わることができ、相手を思いやる気持ちや、みんなが楽しく過ごせるように、模索する様子がみられるようになった。

野の花（放課後等デイサービス）

1. 利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	20	20	20	20	20	19	19	19	19	19	19	19	19
北区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
措置	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	22	22	22	22	22	21	21	21	21	21	21	21	21

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	218	250	271	241	203	242	262	241	183	231	221	230	2793

12. 評価と展望

- ・職員が継続して利用者との関係づくりを行い子ども達の中に社会スキルが定着出来た。
- ・関わりが難しい特定の子にチームでアプローチする事が出来た。
- ・出来た事を褒める事で子ども達の中で自己肯定感や自信がつく事が出来た。

野の花〔第3単位〕（放課後等デイサービス）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	6	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	18	18	19	19	19	18	18	18	18	18	16	16	15.4
北区	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1.6
措置	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1
計	21	21	22	22	22	21	21	21	21	21	18	18	42.3

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	211	263	261	260	234	206	277	275	208	238	196	214	2843

12. 評価と展望

- ・利用者は大きな変化は無かったが職員の変化があったので最初は利用者を理解できるように丁寧に話し合いを行った。
- ・CSP の良い結果と悪い結果を使うことで、子供たちの中に先を見て考える力と判断力が身についた。次年度も効果的な褒め方を用いて子どもの自己肯定感を育み、挑戦できる力を養えるように支援する。
- ・事業時間中に学校の宿題や夏休み冬休みの宿題を計画を立てて行う事で家庭内に持ちこまず終わらせる事が出来た。
- ・C S Pの「指示に従う」「許可を得る」などの社会スキルは職員も意識して取り組み、子どもの規範となるようにする。

ライラック（放課後等デイサービス）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	18	20	20	20	21	21	21	21	20	20	20	20	20.1
北区	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
計	28	30	30	30	31	31	31	31	30	30	30	30	30.1

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	197	245	272	210	214	207	237	237	191	226	200	195	2631

12. 評価と展望

- ・5年生の事業所として療育を行なった。職員の入替えがあり、途中子ども達も落ち着かない様子になったが、すぐに落ち着き活動を行なうことが出来た。
- ・友達同士の関わりを、5年生として集団で過ごすことが出来るように促す関わりを持つことが出来た。
- ・発達支援プランに沿って、年齢相応に社会スキルを身に付けられるように支援出来た。難しい社会スキルは後期の場面で見直す等、子どもの発達に合わせた支援が出来た。
- ・保護者のニーズに合わせてショートステイホームやホームヘルプサービス・学校等と連携をして支援出来たケースがあった。
- ・スキルブックを作成し、社会スキルの練習を行なう際に視覚化出来たことで、後期の後半は子どもがスキル練習に集中して取り組む事ができるようになった。
- ・活動はプラ板制作やクッキング等、日常に時々変化をつけて設定することで、子ども達全体が楽しんで活動に参加する事ができていた。

- ・今後は小学校の最高学年として、子ども達も不安やストレスを抱え過ぎることが増えてくると予想される為、職員も連携して子どもの気持ちを受け止めていき、安心できる事業所であるよう努めていく

事が大切である。

すてきなクジラ（放課後等デイサービス／児童発達支援事業）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

（単位 人）

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
七飯町	10	9	9	10	10	10	10	9	8	8	8	8	9.08
函館市	5	5	5	5	5	5	5	5	6	6	5	5	5.16
北斗市	0	0	0	0	1	1	1	1	2	2	2	2	1
神奈川県 川崎市	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0.83
計	15	14	14	15	16	17	16	15	16	16	15	15	15.3 3

(2) 利用延べ人数

（単位 人）

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	184	212	205	207	184	179	215	200	164	155	169	174	2248

12. 評価と展望

【評価】

- ・学校や幼稚園、保健所、児童相談所、相談員、その他函館・七飯・北斗の事業所との関係を築き、連携することが出来た。
- ・利用していた人数が多くなったことで、送迎が遅くなってしまうことがあった。

【次年度に向けての改善点】

- ・子どもやパートが減るため、子どもたちの安全を守りつつ、楽しく過ごすことが出来るように環境作りを行なう。
- ・CSPやSVを通して、職員とパートとの連携を強め、子どもたちに関する情報を共有していく。

ユスタバ（放課後等デイサービス）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

（単位 人）

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	13	15	13	13	13	13	13	13	13	14	14	14	13.4
北区	3	5	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5	4.6
計	16	20	19	19	18	18	18	18	18	19	19	19	18.4

(2) 利用延べ人数

（単位 人）

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	189	237	233	226	205	172	250	252	197	226	192	228	2607

12. 評価と展望

- ・1年生のクラスということもあり、CSPをベースにした療育を行った。
- ・職員もCSPの効果的な褒め方予防的教育法を練習し若い職員がパートさんにも毎日スキル練習を行い子ども達を褒める習慣ができた。
- ・学校と連携をとり学校支援を行う事ができた。
- ・活動は月ごとに、クッキング、制作等、日常に変化をつけて設定し子ども達が仲間と楽しむ活動を経験することができた。
- ・又、活動前には必ず予防的教育法、活動後には子ども達が社会スキルを身につけることができるよう

に支援を行った。

Ⅳ 児 童 部 門（生活支援）

日中一時支援事業むぎのこ

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
合計	58	72	80	75	75	75	90	88	89	84	102	92	81.7
前年度	84	80	85	88	86	91	88	85	83	86	103	90	87.4

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	391	565	692	773	698	654	925	939	704	779	874	808	8802
前年度	842	853	1022	940	820	1015	1004	933	757	913	952	846	10897

日中一時支援事業ヨシア

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
合計	22	20	20	20	20	20	19	19	19	20	19	19	19.8
前年度	19	19	17	16	17	17	17	17	17	17	17	18	18.6

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	194	260	297	273	200	237	318	316	217	194	243	228	2977
前年度	265	299	268	242	177	251	282	258	213	185	248	212	2900

日中一時支援事業スタディ

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
計	17	17	15	16	15	19	18	19	17	18	16	16	16.9
前年度	23	23	24	25	25	23	23	24	23	26	27	25	24.3

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	148	158	174	184	154	189	208	189	167	182	181	160	2094
前年度	225	239	281	291	245	294	278	291	217	304	312	266	3243

日中一時支援事業 セーブネス

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
合計	38	42	38	35	36	36	35	36	36	38	36	38	37.0
前年度	37	37	39	36	40	40	41	41	39	42	43	42	40.0

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	358	419	432	425	383	361	480	455	337	397	412	365	4824
前年度	367	419	488	424	373	467	479	440	373	425	419	395	5069

ショートステイホームむぎのこ

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	137	139	141	141	144	145	145	148	152	154	156	157	146.6
北区	37	39	39	39	39	40	40	43	45	45	45	46	41.4
西区	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	4.7
南区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0
白石区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
豊平区	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1.4
中央区	4	4	4	4	5	6	7	7	7	9	9	9	6.3
手稲区	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5.0
千歳市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
措置	6	6	6	6	6	7	7	7	7	7	7	7	6.6
計	198	202	204	204	209	213	214	221	227	231	233	235	216

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	208	204	189	202	178	160	176	169	152	160	180	233	2211

12. 評価と展望

- ・様々な年齢や発達段階のお子さんに対応するため、毎週木曜日にパート職員も含めてCSPの講習と学習会を行うようになり、CSPを用いて子ども達に肯定的に関わっている。
- ・今年度は児童相談所からの一時保護委託を11名受け入れ、受け入れ時には児童相談所から情報を基にアセスメントし、CSPを用いてターゲットスキルを設定して関わり、その後も随時各関係部署が集まって支援会議を開いてチームアプローチを継続した。
- ・継続して利用しているお子さんも、必要に応じて支援会議を行い支援の方法を見直した。

- ・毎日の打ち合わせと引継ぎ時に予防のスキル練習、逃げる練習を行い虐待防止に努めた。
- ・てんかん発作のあるお子さんや、重心のお子さんも受け入れ、医師や看護師など、医療とも連携して支援を行った。
- ・低年齢のお子さんや嚥下の難しいお子さんに対して、栄養士と連携して食事量や食形態をお子さんに合わせて行うことができた。
- ・9月の地震災害時は直ちに安全確認を行い保護者に連絡を取った。一時保護委託のお子さんはそのままショートで過ごしたが、他事業所とも連絡を取り合い、食事の提供や子ども達の支援を連携して行うことができた。避難訓練の強化・防災備蓄品の整備を行った。

ショートステイホームピース

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	148	153	156	157	157	158	160	163	164	167	167	158	
北区	35	36	36	37	40	41	44	44	45	46	46	40.5	
西区	5	5	5	5	6	6	6	6	6	6	6	5.7	
南区				1	1	1	1	1	1	1	1	1	
白石区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
豊平区	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	3.3	
中央区	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	4.5	
手稲区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
措置	6	6	6	6	6	6	10	10	10	10	10	8	
計	203	204	209	213	216	219	226	231	235	237	241	223	

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	261	284	302	295	287	259	312	316	311	278	321	333	3548

12. 評価と展望

- ・4月からむぎのこ館で開所し、安全で快適な空間で子ども達も安心して利用する事が出来た。また、職員同士の連携も取りやすくなり、チームで子ども達の支援の向上に努めている。
- ・定期的にパート職員も含めCSPの講習と学習会を行うようになり、全員でCSPを用いて子ども達と肯定的に関わっている。
- ・児童相談所の依頼で一時保護をするケースも増え、随時各部署が集まり支援会議を開いてチームアプローチを行った。家庭引き取り、里親委託へ移行の際も、継続的な支援を行って健全に過ごすために連携会議を行った。
- ・飛び出しの危険のある子どももいるため、安全のルール・マニュアルも強化・整備した。
- ・虐待防止のため、毎日の打合せと引継ぎ時に予防のスキル練習と逃げる練習、マニュアルの読合せを行った。
- ・地震の際は直ちに安全確認を行って保護者に連絡を取った。避難訓練の強化・防災備蓄品の整備も行った。
- ・今年度も他機関・事業所と連携し、利用者さんにとってより良い支援を行うためチームアプローチを進めていく。

むぎのこ保育園

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	17	24	25	24	24	26	26	26	26	26	26	26	26.8
北区	3	4	4	3	3	3	4	4	6	6	6	7	4.41
計	20	28	29	27	27	29	30	30	32	32	32	33	29.0

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	379	651	681	524	492	467	631	642	557	505	563	647	6439

12. 評価と展望

- ・企業主導型保育事業として3年目を迎えて、定員20名から35名に増員している。
- ・0歳児から4歳児で4クラスの形成となる。
日誌・日報の管理整備や入園児健康診断、毎日の視診・毎月の健康診断を行い園児の細かなしている。
- ・更に入園児の5分ごとの睡眠チェックを行い、細かな対応をしている。
- ・保育園が新しいビルに引っ越し環境整備などを随時行うことが出来た。
- ・定員の変更に伴い随時人員配置の確保をして安全に活動できるように配慮した。
- ・それぞれの年齢に応じた活動を行い、CSP（効果的に褒める）を使い関わった。
- ・今年度から月一回のグループカウンセリングを行い保護者とのアセスメントなど行った。
- ・月ごとの個別指導計画を作成して個別の支援を行うことが出来た。
- ・次年度は子どもたちが安心・安全に園生活を過ごせるようにさらにSCALEを大切にしていく。
- ・グループカウンセリングを通して保護者の困り感を引き出し保護者も安心して子どもたちを預けて、関わられるようにしていく。
- ・職員のSV体制を確立して目標を持って仕事が出来、質の高い保育が出来るように研修やCSPのスキル練習を行う。
- ・内部監査チェックにより、書類を正確を作れるようにしていく。

V 成人部門

ジャンプレッツ（生活介護）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	28	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	28	27.2
北区	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
西区	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
清田区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
厚別区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
手稲区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
江別市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
豊平区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	45	44	44	44	44	44	44	44	44	44	44	45	44.2

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	805	850	864	841	757	706	886	840	771	724	746	823	9613

2. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

- ・17年度の個別支援計画は16年度終了評価で利用者本人、保護者同席のもと面談。それを基に検討会議を行い、個別支援計画を策定。その後利用者、保護者同席のもと17年度個別支援計画を説明し、同意を得る（9月も同様に後期個別支援計画を行なった。）

(2) 主な日中活動

- ・作業活動（畑作業・洗車作業・室内清掃・施設外清掃・除雪作業・ビーズ作業・ペンキ）そして3つのグループ（ペンキグループ・キッチンガーデニンググループ・ガーデニンググループ）に分かれ活動を行なった。
- ・スポーツ活動（プール・ソフトボール・ソフトバレー・クロスカントリー・卓球・スケート・サッカー等）
- ・レクリエーション（ボウリング・カラオケ・ショッピング・フットケア・ハンドケア等）
- ・サークル活動（英会話、茶道、フラダンス、太極拳、映画・ヨガ）
- ・行事（キャンプ・1泊旅行・フルーツ狩り・スポーツ大会・バザーなど）

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

4月	英会話・フラダンス・太極拳・入所式
5月	英会話・フラダンス・太極拳・お花見
6月	英会話・フラダンス・太極拳・いちご狩り
7月	英会話・フラダンス・太極拳・海水浴
8月	英会話・フラダンス・太極拳・キャンプ（中小屋小学校）
9月	英会話・フラダンス・太極拳・キャンプ（中小屋小学校）
10月	英会話・フラダンス・太極拳・バザー・スポーツ大会
11月	英会話・フラダンス・太極拳・1泊旅行
12月	英会話・フラダンス・太極拳・クリスマス会
1月	英会話・フラダンス・太極拳・成人式
2月	英会話・フラダンス・太極拳・豆まき
3月	英会話・フラダンス・太極拳・ひな祭り

3. 給食業務

給食提供形態	1日1食 毎日提供 食事時間 11:30~13:00 食事提供に当たって、利用者の心身の状況や嗜好に合わせて食事の提供を行うとともに、年齢、障害の特性に応じた適切な栄養量及び内容の食事提供を行うため上記の栄養士を配置し、必要な栄養管理を実施。
給食費	650円

4. 健康管理業務

(1) 医療体制

- ・嘱託医田村ドクター、平尾ドクターによる毎年1~2回の生活習慣予防検診の実施

(2) 健康管理

- ・年2回の健康診断の実施（5月・10月）
- ・看護師・スタッフの連携による健康管理・指導
- ・定時薬・臨時薬の準備と保管・服用管理
- ・栄養士による食事管理

5. 施設設備管理業務

- ・エレベーター（リモート点検毎月・技術員点検4回・法定検査年1回）
- ・防災設備（法定点検年2回）・施設内ワックス（1回）

6. 防災対策

(1) 防火管理者の状況

職名	施設長	氏名	高田 隆一	選任届出年月日	平成21年4月1日
----	-----	----	-------	---------	-----------

(2) 消防計画の状況

当初届出年月日	平成14年4月1日	最終変更届出年月日	平成30年4月24日
---------	-----------	-----------	------------

(3)消防設備等の点検状況

区分	点検の箇所等			
	総合		外観・機能等	
点検年月日	29年7月20日	30年1月24日	29年7月20日	年月日
消防署への報告	㊦・無		整備点検記録の有無	
			㊦・無	

(4)所轄消防署の立入検査状況

検査の有無	有・㊦
立入検査年月日	年月日
改善指示事項の有無	有・㊦
改善指示事項の内容	
上記の改善内容	

(5)避難場所の状況

第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	みずとり公園	予定地	伏古北小学校
施設からの距離	10m	施設からの距離	200m
予定地までの所要時間	約1分	予定地までの所要時間	約10分

(6)非常災害に対する訓練の状況

実施年月日	実施訓練内容	実施年月日	実施訓練内容
29・4・26	避難・消火・通報	29・10・25	避難・消火・通報
29・5・24	避難・消火・通報	29・11・22	避難・消火・通報
29・6・28	避難・消火・通報	29・12・27	避難・消火・通報
29・7・26	避難・消火・通報	30・1・24	避難・消火・通報
29・8・23	避難・消火・通報	30・2・28	避難・消火・通報
29・9・27	避難・消火・通報	30・3・28	避難・消火・通報

(2) その他の防災対策

- ・自動通報装置の設置
- ・セコムとの連携・利用者の防災センター体験による防災意識高揚
- ・AEDの設置
- ・警備日誌の励行
- ・3日分の食料、水の備蓄、災害時拠点としての防災・災害対策用品の備蓄
- ・町内会防災訓練参加
- ・災害時指定避難場所への避難（伏古北小へ（年1回））

7. 職員配置状況

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理者		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
サービス管理責任者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
生活支援員	常勤	15	15	15	15	15	15	14	14	14	14	14	14
生活支援員	非常勤	19	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
看護師	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
作業療法士	非常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
栄養士	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務	非常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
栄養士	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員	非常勤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
用務	非常勤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
合計		44	45	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46

8. 実習生・介護等体験の受入

受入学校名		実習期間	人数
実習生	せいとく介護こども福祉専門学校	6月26日～7月14日	1人
	せいとく介護こども福祉専門学校	11月20日～12月5日	1人

	北星学園大学	12月19日～12月23日	1人
	札幌国際大学短期大学部	2月19日～3月2日	1人
	北星学園大学	3月5日～3月9日	1人
	札幌国際大学短期大学部	3月9日～3月16日	1人

9. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4月1日	むぎのこ	法人研修	5名
4月6日	むぎのこ	朝研修①	3名
4月20日	むぎのこ	朝研修②	3名
5月9日	むぎのこ	朝研修③	3名
5月25日	むぎのこ	朝研修④	2名
6月8日	むぎのこ	朝研修⑤	3名
6月17日	むぎのこ	性教育研修	6名
6月22日	むぎのこ	朝研修⑥	3名
7月13日	むぎのこ	朝研修⑦	3名
7月27日	むぎのこ	朝研修⑧	3名
8月8、9日	むぎのこ	中小屋セミナー	3名
8月24日	むぎのこ	朝研修⑨	3名
9月14日、	むぎのこ	朝研修⑩	3名
10月12日	むぎのこ	朝研修⑪	3名
10月26日	むぎのこ	朝研修⑫	3名
11月9日	むぎのこ	朝研修⑬	3名
11月30日	むぎのこ	トラウマとアタッチメント	1名
12月14日	むぎのこ	朝研修⑭	3名
12月26日	むぎのこ	アング-マネージメント	1名
1月25日	むぎのこ	朝研修	3名
2月8日	むぎのこ	朝研修	3名
2月22日	むぎのこ	朝研修	3名
3月8日	むぎのこ	朝研修	3名

(2) 施設外研修・行政説明会への参加

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4/8～9	堀健一	管理者研修受講候補者の事前検定	1
4/19～21	グローバルメディア	コモンセンスペアレンティング(幼児)管理者養成研修	1
5/24～25	北海道知的障がい福祉協会	全道施設長セミナー	1
6/23	札幌市知的障がい福祉協会	新任支援員研修会	1
6/29～7/1	清水基金	清水基金国内研修	1
7/8～9	北海道ファミリーホーム協議会	北海道ファミリーホーム研究大会	1
7/10	北海道知的障がい福祉協会	地域・相談支援セミナー	1
7/18～20	北海道知的障がい福祉協会	障害者虐待防止・権利擁護指導者養成	1
7/25～27	日本財団	発達障害支援スーパーバイザー養成	1
7/28	札幌市社会福祉業議会	ニューパワー全体セミナー	3
9/16～18	社会福祉法人 はるにれの里	自閉症実践セミナー	1
9/20～21	北海道知的障がい福祉協会	全道知的障がい関係職員研究大会	2
9/30	社会福祉法人 はるにれの里	とことん自閉症支援	2
10/1	社会福祉法人 はるにれの里	社会福祉法人はるにれの里 30周年記念講演会	2
10/2～3	北海道知的障害福祉協会	全道支援研究委員会特別研修会	1
10/16～17	北海道地域ケアマネジメントネットワーク	相談支援従事者研修	1
11/7～9	北海道地域ケアマネジメントネットワーク	北海道サービス管理責任者研修	1
11/7～8	日本知的障害者福祉協会 児童発達支援部会	全国児童発達支援施設運営協議会	2
11/9	札幌市食品衛生協会	ノロウイルス食中毒予防講習会	1
11/15～16	北海道社会福祉協議会	メンタルヘルス研修	1
11/16～17	北海道知的障害福祉協会	日中活動支援部会職員研修会	1

11/23	サポートひろかり	自生症の方のパニック0にする12の方法	1
11/27～ 12/1	日本財団	発達障害支援スーパーバイザー養成研修	1
12/2～3	堀健一	管理者SV研修	1
12/4	北海道社会福祉協会	リスクマネジメント研修	1
12/17	札幌みんなの会	わかりやすい権利条約	1
1/14	北海道知的障がい福祉協会	地域支援部会	1
1/15～16	北海道福祉施設士会	北海道福祉施設士会ブロックセミナー	1
1/19～21	日本知的障害者福祉協会	知的障害援助専門員養成通信教育スクーリング	2
2/11	人権セミナー実行委員会	人権セミナー	1
2/15～16	札幌市防災協会	甲種防災管理新規講習	1
2/19～22	株式会社誌恩	行動援護従事者養成研修	1
2/23	札幌市知的障がい福祉協会	職員研修会	2
3/5～8	株式会社誌恩	行動援護従事者養成研修	1
3/13～15	日本財団	発達障害支援スーパーバイザー養成研修	1
春学期	アライアント国際大学	CSPP	1

10. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考
		定例	臨時			
支援員会議	毎月第1・3水曜	24回		管理者・サビ管・支援員	16名	
ケース会議	毎月第4水曜	12回		管理者・サビ管・支援員	16名	
各種委員会	各委員会規定日	12回		委員会担当職員	10名	
職員会議	毎月第4水曜日	12回		管理者・サビ管・支援員	16名	
運営会議・各部会議	毎月第2水曜日	11回		管理者・サビ管・支援員	4名	

11. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法
3/19	Yさんの母親より、Yさんが嘔まれたことについて職員からの報告あったが、なぜこのようになったのか詳しく聞きたい。	苦情当日に自宅を訪問し、嘔まれた事、病院受診したことは母には電話で連絡していたが、電話連絡では説明できたと担当職員が感じ、送迎時の報告が詳しい説明を行わず、謝罪だけになっていたことを謝罪する。今後の改善策として、傷がある場合はすぐ保護者への連絡で詳しく説明をおこない、送迎時など2人以上の職員詳しく説明する事で保護者も納得されていた。

12. 評価と展望

利用者支援では、今年度もコモンセンスペアレンティングを中心に据え、全職員が各教育法ができるよう、また利用者だけではなく、職員も社会スキルを通して人とのコミュニケーションを学び、そして実践で実際に使えるように、朝の打ち合わせ等でのスキル練習、またパート職員の勉強会（第2水曜）を行なうことを継続することで、コモンセンスペアレンツも職員間での共通言語となりつつある。

また家族会からの要望で今年度も保護者へのCSPも開催、少人数ではあるが継続開催することができ、自宅に帰宅してからの保護者の関わりの一助となった。今年度も保護者CSPを定期的で開催予定である。今年度もチャイルドノートを使用し利用者さんとの日々の関わりを記録することで数値化でき、支援する側がどのように利用者に関わっているかを見える化することができた。対応が難しい利用者の方に対しては、チームで会議を行ない、どのようにアプローチしていくかを、回数や比率、充足率を見ながら行なうことで具体的な支援に繋げ実際に良い支援をチームで行うことができた。

地域とのつながりでは、丘珠南町内会の催しや行事に利用者も職員も参加。地域の方からも「ぜひ町内活動に参加してほしい」とのお言葉をいただいた。近隣住民宅の除雪要請で利用者さんと除雪を行う。こちら地域の方より賛辞をいただく。伏古北小との交流会を今年も開催。これからもより地域の理解や信頼関係が必要である。

非常災害時に備え、毎月の防災訓練、総合避難訓練（年2階）、災害時避難訓練（伏古北小へ避難）、白石防災センター見学等で、防災時の啓蒙に努める事を徹底。災害時の啓蒙に努める。今後も地域の方々や学校、町内会と連携し、より地域に開かれ安心、安全に配慮されたジャンプレッツを目指す。

職員一人一人が、自分の役割と責任を全うし、利用される方々に対して、CSPを土台に据えながら、利用者一人一人の今必要な支援、そして、将来的にどのようなようになって欲しいかの支援、短期・長期を見据えた包括的な支援を今後も行なっていく。

ジャンプレッツ（就労移行）

1. 利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
北区	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0.6
計	11	11	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10.6
前年度	9	9	9	10	12	12	12	12	12	12	12	10	11.7

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	129	156	156	188	172	143	159	140	138	149	125	141	1796
前年度	114	122	146	154	128	147	129	149	119	103	88	95	1494

1.2. 評価と展望

調理室での作業では、食材の下処理、食器の準備や洗浄業務、調理室の清掃業務などの作業を行っている。利用者さんの生活環境は様々であるため、作業のスキルアップだけではなく、子育てについて

の悩み、日々の生活の不安などの相談や、生活リズムが安定せず通所する事が難しいなどの相談など、生活支援、家族支援を必要とされる方が多い。

精神的な問題や不安を抱える方が多い。自宅から出る事が出来ない利用者の方もいる。毎日の電話連絡等、また個別に話す機会を設け、心理士によるカウンセリングを定期的に受けるなど、コミュニケーションする時間をできるだけ増やし、職員が利用者さんの思いを丁寧に聞く事で悩みや不安の軽減を図れるよう配慮した。

一般就労に結び付いた利用者さんは1名。2018年に法人内の子ども部門で支援をされている。就労後も定期的に連絡、職場訪問などを行なうことでご本人や職場の担当者と連携し職場に定着できるよう支援を継続している。

2018年度は、昨年度より利用者も増加、利用率も増えた。欠席がちな利用者には毎日連絡し心身の体調を把握し通所を促すなど、より利用者さんに合わせた作業を提供するなどの対策を講じた。

職員が生活介護同様、CSPを身につけ基礎的な部分を学び効果的に褒め、予防教育を行うことで支援に活かしている。職員自らが練習を行ない実践をとおして、肯定的な関わりを増やし、利用者さんが自己肯定感を高められるよう支援している。就労に向けて、社会スキルを学び、新たな職場でも社会スキルを般化できるよう支援していく。

仕事のスキル（ハード面）も大切だが、生活に必要な社会スキルなど（ソフト面）の支援も大変重要になってきている。個別に面談を行なっていく事で就労支援だけではなく、生活面の不安や心配事などを相談し、少しでも解消することで、日々の通所の安定を図っていく。

ハーベストガーデン（生活介護）

1. 利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
計	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
前年度	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	529	560	606	577	510	491	583	531	509	481	513	554	6444
前年度	547	564	646	612	557	573	631	597	570	569	551	645	7062

17. 評価と展望

職員は CSP を学び、教育法を用いて利用者さんとの関係を築いていった。個別にどのような社会スキルが必要か支援計画を立てて毎日の練習を行った。社会スキルを学ぶことで、施設外の活動に参加する機会が増えて、地域での当たり前の生活を実現していている。しかし、地域で生活するといろいろな事が起き、周りの方に迷惑をかけることもあった。失敗してもあきらめないで、どのようなスキルが必要だったか考えて、問題を一つ一つ解決して次に繋げていく。そのことによりまた生活の質があがり、当たり前の生活に繋がる。職員は常に先回りして考える。そうすることで支援力も上がってくると感じた。

利用者さんたちで、協力して活動を行うことも増えてきている。周りの人への気づかいができる集団になってきている。グループホームとの連携で、どのような支援がお互いに行われているのかを確認することができ、合わせる事ができた。

店舗は働ける利用者さんが増え、自分たちで仕事を探すことが出来てきている。お客様にも憩いの場として、定着してきたと感じられる。今後は店舗の会議を週1回開き、より良い接客や製造のレベルを上げていく。

2019年度も、社会で豊かな生活をおくることを真剣に考えて取り組んでいきたい。一つ一つの活動も何のために取り組んでいるのか考えて、意味のあるものにしていく。活動を通して社会スキルを身につけていけるよう職員が行動していく。

店舗ではランチや子ども食堂などを継続して行い、地域の困っている方々でも入りやすい店舗づくりを目指していく。地域で当たり前に生活していく大前提を目標に、全ての作業、活動に取り組んでいく。

トリニティ（生活介護）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	15	15	15	15	15	15	16	16	16	16	16	16	15.5
中央区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
北区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	17	17	17	17	17	17	18	18	18	18	18	18	17.5
前年度													

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	318	356	377	363	331	308	376	381	368	341	345	359	4223
前年度													

17. 評価と展望

- ・4月に開所し CSP を中心に支援を行っている。
- ・職員が社会スキルを用いて、利用者の方へスキル練習など取り組んだ。
- ・支援員会議やケース会議を通して、利用者の方の困り感や成長などを職員間で共有し、チームでの支援を意識して取り組むことができた。
- ・今年度も会議や朝の打合せで日々の関わりから反省などを出し合い、支援方法や一貫した支援をし、対応していきたい。
- ・問題に直面してもチームで考え、解決していけるよう、次につなげていきたい。
- ・利用者の方が社会スキルを身に付けることが出来るよう、一人一人の成長、発達に合わせたスキル練習を取り入れ、地域で安心して生活できるよう支援を行っていく。

ホワイトハウス（共同生活援助）

1. 利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	44	44	43	43	43	43	44	44	44	44	43	43	43.5
北区	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4.0
西区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0
豊平区	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4.0
厚別区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
清田区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
札幌市外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
計	56	56	55	55	55	55	56	56	56	56	55	56	55.6
前年度	47	47	47	49	49	49	49	49	49	49	49	49	48.5

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	1536	1545	1549	1588	1493	1471	1612	1544	1534	1489	1444	1593	16288

2. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

・2017年度の個別支援計画はジャンプレッツ・ハーベストガーデンと連携をとり、2016年度終了評価で利用者本人、保護者同席のもと面談。それを基に検討会議を行い、個別支援計画を策定。その後利用者、保護者同席のもと2017年度個別支援計画を説明し、同意を得る。(9月に同様に後期個別支援計画を行った。)

(2) 主な日中活動

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

4月	誕生会、カラオケ、ショッピング
5月	誕生会、カラオケ、ショッピング、キャンプ
6月	誕生会、カラオケ、ショッピング
7月	誕生会、カラオケ、ショッピング
8月	誕生会、カラオケ、ショッピング、キャンプ
9月	誕生会、カラオケ、ショッピング
10月	誕生会、カラオケ、ショッピング
11月	誕生会、カラオケ、ショッピング
12月	誕生会、カラオケ、ショッピング
1月	誕生会、カラオケ、ショッピング
2月	誕生会、カラオケ、ショッピング
3月	誕生会、カラオケ、ショッピング

3. 給食提供

- ・1日2食(朝食、夕食)
- ・食事時間 朝食：7:00～9:00
夕食：17:00～19:00
- ・食事提供に当たっては、基本的に支援者が調理、準備をする
- ・利用者の心身の状況及び嗜好を考慮し、上記の時間に食事の提供を行ない、世話人が献立を考える
- ・ハーベストガーデンより夕食の惣菜(月、火、木、金)を購入している時は、その惣菜を確認してバランスの良い副食を考える
- ・調理の時は刃物、お湯、油等に世話人が十分注意し、これを行なう

4. 医療体制

- ・嘱託医(むぎのこ発達クリニック病院長)、ジャンプレッツ、ハーベストガーデンとの連携により利用者の体調の変化による診察の実施

5. 施設設備管理業務

・防災設備（法定点検年2回）

6. 防災対策

(1) 防火管理者の状況

職名	防火管理責任者	氏名	内山 武人	選任届出年月日	2015年9月
----	---------	----	-------	---------	---------

(2) 消防計画の状況

当初届出年月日	なし	最終変更届出年月日	なし
---------	----	-----------	----

(3) 消防設備等の点検状況

区分	点検の箇所等			
	総合		外観・機能等	
点検年月日	29年7月28日	30年1月25日	29年7月28日	30年1月25日
消防署への報告	○有 ・ 無		整備点検記録の有無	
			○有 ・ 無	

(4) 所轄消防署の立入検査状況

検査の有無	○有 ・ 無
立入検査年月日	29年7月28日 他
改善指示事項の有無	○有 ・ 無
改善指示事項の内容	特になし
上記の改善内容	-

(5) 避難場所の状況

「ホワイトハウス」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	日の丸会館	予定地	栄小学校
施設からの距離	100m	施設からの距離	600m
予定地までの所要時間	徒歩5分	予定地までの所要時間	徒歩15分

「アーク」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	伏古児童会館	予定地	伏古小学校
施設からの距離	100m	施設からの距離	300m
予定地までの所要時間	徒歩5分	予定地までの所要時間	徒歩10分

「マーガレット」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	美香保公園	予定地	美香保小学校
施設からの距離	50m	施設からの距離	500m
予定地までの所要時間	徒歩2分	予定地までの所要時間	徒歩25分

「イーラット」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	ひのまる児童会館	予定地	栄地区センター
施設からの距離	200m	施設からの距離	350m
予定地までの所要時間	徒歩10分	予定地までの所要時間	徒歩15分

「クローバー」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	栄南小学校	予定地	栄南中学校
施設からの距離	400m	施設からの距離	900m
予定地までの所要時間	徒歩20分	予定地までの所要時間	徒歩30分

「ダニエル」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	ひのまる児童会館	予定地	栄地区センター
施設からの距離	300m	施設からの距離	500m
予定地までの所要時間	徒歩10分	予定地までの所要時間	徒歩20分

「オリーブ」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	日の丸会館	予定地	ひのまる児童会館

施設からの距離	200m	施設からの距離	500m
予定地までの所要時間	徒歩 15分	予定地までの所要時間	徒歩 20分

「アン」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	栄地区センター	予定地	ひのまる児童会館
施設からの距離	150m	施設からの距離	150m
予定地までの所要時間	徒歩 10分	予定地までの所要時間	徒歩 10分

「サンタローザ」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	日の丸会館	予定地	ひのまる児童会館
施設からの距離	200m	施設からの距離	500m
予定地までの所要時間	徒歩 15分	予定地までの所要時間	徒歩 20分

(6)非常災害に対する訓練の状況

実施年月日	実施訓練内容	実施年月日	実施訓練内容
29・4・20	避難・消火・通報・救出・その他	29・10・26	避難・消火・通報・救出・その他
29・5・18	避難・消火・通報・救出・その他	29・11・30	避難・消火・通報・救出・その他
29・6・22	避難・消火・通報・救出・その他	29・12・26	避難・消火・通報・救出・その他
29・7・20	避難・消火・通報・救出・その他	30・1・24	避難・消火・通報・救出・その他
29・8・31	避難・消火・通報・救出・その他	30・2・20	避難・消火・通報・救出・その他
29・9・28	避難・消火・通報・救出・その他	30・3・20	避難・消火・通報・救出・その他

※ホームによって訓練の実施日が異なる事があります

(2) その他の防災対策

- ・住居内外点検、非常持ち出し袋常備、保存水常備

7. 職員配置状況

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理者		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
サービス管理責任者	常勤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
世話人	非常勤	16	16	16	16	16	16	8	8	8	8	8	8
生活支援員	常勤	9	9	9	9	9	1	1	1	1	1	1	1
生活支援員	非常勤	4	4	4	4	4	11	11	11	11	12	12	12
看護師	非常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
夜間支援員	非常勤	16	15	15	15	15	16	16	15	15	15	14	15

8. 実習生・介護等体験の受入

- ・なし

9. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
3/31~4/1	社会福祉法人麦の子会	法人研修	
5/30	社会福祉法人麦の子会	CSP研修	11
5/16~17	社会福祉法人麦の子会	CSP研修	2
6/20	社会福祉法人麦の子会	CSP研修	11
7/18	社会福祉法人麦の子会	CSP研修	11
8/22	社会福祉法人麦の子会	CSP研修	11
9/26	社会福祉法人麦の子会	CSP研修	11
10/24	社会福祉法人麦の子会	CSP研修	11
12/4~5	社会福祉法人麦の子会	CSP研修	5
12/6~7	社会福祉法人麦の子会	CSP研修	6
1/19~20	社会福祉法人麦の子会	CSP研修	3
1/30~31	社会福祉法人麦の子会	CSP研修	3

(2) 施設外研修・行政説明会への参加

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
7/10	北海道知的障がい福祉協会	平成 29 年度地域・相談支援セミナー	1
7/22～23	日本グループホーム学会	第 13 回日本グループホーム学会全国大会	1
8/31～9/1	社会福祉法人はるにれの里	強度行動障がい支援者養成研修(基礎)	1
10/5	北海道知的障がい福祉協会	全道グループホームスタッフ研修会	2
1/10～11	社会福祉法人はるにれの里	強度行動障がい支援者養成研修(基礎)	1
3/12	キャリアバンク株式会社	知的障がい者等雇用促進セミナー	1

10. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
グループホーム会議	毎週月曜	52 回		管理者・サビ管 世話人・生活支援員	12 名	

11. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法
	なし	—

12. 評価と展望

- ・2018 年度は 4 月から新しく 1 ホームが開所しており、10 箇所のホームと 3 箇所のサテライトで定員が 56 名まで増えていた。その中で 5 月に 1 名、翌年 2 月に 1 名、3 月末で 1 名が退所して、2 名が新しく入居している。
- ・今年度も新人職員の育成強化の為に、4 名が生活介護事業所とグループホームを兼務することで、利用者の日中活動の様子を把握してグループホームでの生活支援に繋げていた。
- ・9 月の地震災害時には各ホームで安全確認をして、そのままホームで終日過ごしている。その際には食事の提供や利用者の支援などに通所の職員と連携して対処が出来ていた。今後の対策として『ライフラインの確保』などを麦の子会としてどう対処していくかを防災委員会で検討を進めている。
- ・各ホームで C S P の「効果的な褒め方」「予防的教育法」「問題行動を正す」を数値化して翌日の打ち合わせの際に発表して、その場でスキル練習も行うようにしていった。
- ・バザーやキャンプ、スポーツ観戦など戸外活動においても利用者が楽しく豊かな生活をおくれるように支援していく。
- ・引き続き、通所とグループホームは成人部門としてお互いに協力して利用者の支援にあたっていく。

VI 社会的養護部門

ガブリエルホーム

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4 月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
措置	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	4	4	5.5
一時保護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	4	4	5.5
前年度	6	6	6	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6.33

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4 月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	180	186	180	186	186	180	186	168	155	155	112	124	1998
前年度	180	194	210	217	217	210	217	180	186	186	168	186	2351

14. 評価と展望

前年度同様6名でスタートした。小学校2名進級、中学校入学1名、中学校卒業・高校入学1名、トリニティ通所男児1名、専門学校入学1名。

7月には、ファミリーホーム北海道研究大会が定山溪温泉で開催され、子どもたちも参加し、フルーツ狩りやプールの活動を楽しんだ。また、道内各地から集まったファミリーホームの子どもたちとも交流出来た。

保育士を目指し専門学校に入学した女兒は、6月から不登校になり9月に退学した。平成31年1月31日付けで措置解除になったが、アパートが決まらず引き続きホームで生活している。

また、11月に高1の女兒が管理者に怪我をさせて現在少年院に入っている。

年齢層が広く子どもによって配慮する内容が違うので、CSPを使ってチームで関ったり助けを求める場面も多かった。

次年度は、5名の子どもでスタートしそれぞれ進級する予定である。8歳から17歳までの幅広い年齢層で、発達段階も違うので児童の状況に合わせて、引き続きCSPを使いながら適切な関わりが出来るようにしていく。居宅介護と移動支援の利用も引き続き利用していく。職員が研修会に積極的に参加し、むぎのこ・学校・児童相談所・クリニック等と連携しながら養育していく。

ベーターホーム

1. 利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
措置	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5.8
社会的養護自立支援事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.16
一時保護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.08
計	6	6	6	6	6	6	7	6	6	6	6	7	6.08
前年度	6	6	6	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	180	186	180	186	186	180	186	180	186	186	164	204	2204
前年度	166	186	180	186	186	180	187	180	206	212	174	166	2229

14. 評価と展望

2018年度は高校3年生3人というこれからの進路を考えなければならない年でした。CSPで効果的に褒めることまたポイント制やスキル練習をすることをしてきました。他事業所の職員の方々の協力もあり」暴力があった子どもも暴力がほとんどない状態で過ごせました。また高校卒業に関してもブラックベリーをはじめとする他事業所の職員の方々の協力により。無事に卒業することが出来ました。引き続き、スキル練習や効果的に褒めることを続けていく。2歳から19歳までの幅広い年齢層で、また、思春期を迎える子ども達や発達段階も違うので児童の状況に合わせて、他事業所に助けを求めながら、引き続きCSPを使いながら適切な関わりが出来るようにして行く。引き続き利用して行く職員が研修会に積極的に参加し、むぎのこ・学校・児童相談所・クリニック等と連携しながら養育して行く。

Ⅶ 医療・地域・相談部門

むぎのこ子ども相談室

1. 利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	272	273	275	277	280	280	281	282	284	284	288	291	264
北区	96	96	96	96	96	96	97	97	97	97	97	97	96.5
南区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
白石区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
豊平区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
中央区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
手稲区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	374	375	377	379	382	382	383	384	386	386	388	391	382

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	14	28	33	35	39	28	32	43	35	13	18	86	404

7. 評価と展望

- ・子どもを対象とする、障害児相談支援を中心に行った。
- ・新規の受給者証申請に伴う、サービス等利用計画案の依頼のニーズが増えてきた。
- ・クリニックや保健センターからの紹介も増えてきて、その都度すぐに対応していくようにしていった。
- ・受給者証の更新のためのサービス等利用計画案の作成や、担当者会議、本計画の作成を前年度よりも進めることが出来た。
- ・出産、パニック等、家庭のニーズに合わせてショートやヘルパーの申請、変更を素早く行うようにした。
- ・事業所の紹介の希望の相談も増えているため、地域支援マネージャーと連携し、紹介を行った。
- ・計画相談の手続きとして、①保護者が区役所に申請に行く、②申請後、計画相談の依頼という流れが保護者の方で理解していない方がいるので、まずは保護者が区役所に申請の手続きを行うことを伝えながら、難しい場合は代理申請等の支援を行なった。
- ・地域療育等支援事業と連携し、幼稚園、保育園で発達の心配のある子が児童発達支援事業を利用するまでのサポートを行った。
- ・家族支援が必要な家庭は、通っている事業所、委託の相談室セーボネス等とも連携しサポートしている。
- ・支援が必要な家庭は関係機関で集まり家族支援会議を実施し必要な支援を行なうようにした。
- ・東区の相談支援事業所が参加する、地域のブロック会議に参加し、情報交換等行うことで連携を図っていった。
- ・今後も各機関や事業所、担当者と連携しながら、スムーズにサービスの利用に繋がったり、子どもや家族の困り感に寄り添い、支援していく。

相談室セーボネス

1. 利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
東区	585	599	606	618	628	635	647	651	653	659	673	684
北区	76	76	76	76	76	78	80	80	81	81	86	87
西区	7	7	7	7	7	7	7	8	8	8	8	8
南区	1	1	1	4	4	4	4	4	4	4	4	4
白石区	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
豊平区	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
中央区	12	13	13	14	14	14	14	15	15	17	18	18
手稲区	7	8	8	8	8	5	6	6	6	6	6	6
措置	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
計	704	720	727	743	753	759	774	780	783	791	811	823
前年度	608	618	629	632	642	644	650	657	663	671	685	695

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	641	757	788	754	635	674	778	705	708	695	833	846	8814
前年度	849	953	911	785	609	715	730	482	553	595	558	608	8348

12. 評価と展望

- ・障がい種別に関係なく、札幌市の障がい児・者又は家族の日常生活の相談、金銭管理、福祉サービス、就労支援、精神的支援に訪問、来所、電話、メールで応じた。
- ・各種福祉サービス申請に関わる援助をし、区役所、児童相談所、教育相談、病院、学校、法律事務所などの同行支援等を行った。
- ・計画相談として、サービス等利用計画の作成をした。
- ・札幌市自立支援協議会、札幌市自立支援協議会東区部会に参加した。障がい有無に関わらず、互いに理解し、共生できる地域を目指すことを目的に研修等を行った。
- ・関係機関との連携で、要保護家庭や保護者に障がいがある家庭、子どもに障がいがある家庭への支援を行った。
- ・地域支援員の委託を受け、保育士さん等と協力し、民生児童委員、福祉協力員の方と一緒に地域に浸透するよう活動した。民生委員からの相談ケースもでてきており、連携することができた。

- ・今後も本人主体の相談を心がけ、人権を尊重した支援を行う。児童発達支援センター、児童相談所、病院、まあち、保健センター、学校等の関係機関と連携し、本人そして家族を大事にする相談室を目指したい。

むぎのこ発達クリニック

1. 利用状況

- ・1年間の受診者数 12,842人 1日平均48.7人
(紹介状：250通 特別児童扶養手当診断書：349通
国民年金診断書(精神障害用)：66通 福祉手当診断書：30通
自立支援意見書：89通 精神通院医療診断書：13通
デイサービス診断書：91通 発達・知能検査レポート文書：457通
その他文書：73通)
- ・インフルエンザ予防接種 829人
- ・定期・任意の予防接種(定期接種：302人 任意接種：3人)

2. 健康管理業務

(1) 医療体制

- ・通常の診療体制が、その月によって生じる体制変更の内容は、むぎのこ掲示板とジャンプレッツに掲示している。その月によって掲示の遅くなる時があったので、前月の終わり頃に貼りだすようにしていく。また、クリニックだよりのお知らせ欄には、確実に記載していく。
- ・療育中のけがにおいては、診療を最優先にして即時に対応した。
- ・特定の整形外科とは、今後も協力いただけるよう、日頃の連携を大切にしていきたい。

(2) 健康管理

- ・職員の健康診断を、早期に済ませるようスケジュールに沿って確実に受ける手配を手早くした。
- ・秋には、法人全体の健康診断状況や結果をチェックして必要時個別に対応した。
- ・各事業所の感染対策、衛生管理等の意識付けをタイミングをみて行った。
- ・市内の感染症や法人内の罹患状況を把握して、できるだけ迅速に対応して蔓延防止に努めた。

3. 施設設備管理業務

- ・セコムに引き続き依頼して、防犯対策を行った。
- ・設備の点検・補修等は、札幌住宅にすぐに対応していただいた。
- ・施設周囲の点検・整備はこまめに行い、近隣とのコミュニケーションの目的としても意識して行った。

4. 職員配置状況

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
医師	非常勤	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
診察補助者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
診察補助者	非常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
ST/OT/心理療法者	常勤	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
ST/OT/心理療法者	非常勤	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
事務員	常勤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
事務員	非常勤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
合計		17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17

5. ボランティアの受入

・特になし

6. 実習生・介護等体験の受入

・むぎのこ実習生に対して、クリニックでの各種療法や親子教室の見学など、クリニックの位置づけを通して、依頼時には随時対応した。

7. 障害者自立支援法による事業の整備

・むぎのこ利用児・者の他にも、福祉資源を有効に活用できるよう情報提供と、必要時診断書および意見書の作成・調整・相談を行った。

8. 人事労務・給与制度等(全事業共通)

人事労務管理	異動事項特になし
給与制度	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉職員処遇改善助成金による処遇改善の実施 ・最低賃金改定に伴い時間給を改善 ・みなし労働制を導入
職員福利厚生	<ul style="list-style-type: none"> ・職員福利厚生の充実のため、パートタイム職員も含め、福利厚生センター（ソエルクラブ）への加入を促進した。 ・全職員に対する定期健康診断を実施した。 ・腰痛検査を実施した（直接処遇職員）。

9. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4/1	むぎのこ	法人研修	名

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
7/26～7/30	発達協会	実践セミナー	1名
8/3～8/4	北海道特別支援学校肢体不自由病弱教育校長会	第1回北海道肢体不自由教育摂食実技研修会	1名
9/6	日本小児心身医学会	第36回学術集会	1名
11/2.3.4	日本感覚統合学会	第36回日本感覚統合学会研究大会	1名
11/4	さっぽろ子ども聞こえ相談ネットワークを作る会	難聴や耳鳴りに対する医療・人工内耳・補聴器・療育の進歩	1名
11/30～12/1	日本子ども虐待防止学会	第24回学術集会おかやま大会	2名

10. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
全体会議	月1回	12回	0回	クリニック全職員	7～8名	

11. 財務・事務管理(全事業共通)

情報公開	<ul style="list-style-type: none"> 各事業所に事業・法人の報告・計画、決算・予算等を開示した。 ホームページを全面更新し、情報発信を強化した。 後援会と連携し、日常の様子を公開に努めた。
個人情報保護と共有	<ul style="list-style-type: none"> 電子データを外部メディア等に複写すること等の禁止を徹底した。 電子データは専用サーバーに保存し、職員のみ VPN 接続で共有した。
苦情対応	<ul style="list-style-type: none"> 苦情処理要綱により、各事業が迅速に対応した。
業務の効率化・コスト削減	<ul style="list-style-type: none"> 本部配置職員(パートを含む)を増員し、各事業の共通業務を一元管理した。 各事業所のパソコンを随時更新・追加し、業務の効率化を図った。
契約の公正・透明性の確保	<ul style="list-style-type: none"> 利用契約は担当職員によって公正に契約した。 経理系契約は入札を含め、経理規程を遵守した。
事務管理の適正化	<ul style="list-style-type: none"> 法人職員と各事業所事務担当職員との連携を図った。
第三者評価	<ul style="list-style-type: none"> 第三者評価は実施していない。

12. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法
月		

13. その他特記事項

法人内の医療事業としての意識をもって、むぎのこ年間スケジュールにより沿った連携が取れたと思う。今後は、より具体的な内容・意識を持って連携が取れればと思う。

14. 評価と展望

(1)心理療法・査定（アセスメント）

平成 30（2018）年度 心理支援業務報告 臨床心理士 吉村 実保

H30(2018)年度の心理士の体制は、非常勤臨床心理士：秋田有紀子・加藤香子・吉村実保 非常勤心理士：水上真理子の4名が勤務した。

① 個人心理療法

心理療法の方法は、各セラピストの専門性により、実際の行動の改善を目的とするアプローチ（SST、ロールプレイ、認知行動療法／秋田）、心の中の対人関係の改善を目的とするアプローチ（精神分析的な心理療法、来談者中心療法、プレイセラピー／吉村）、トラウマに焦点をあてた対症療法を目的としたアプローチ（水上）など様々あるが、セラピストは個々のクライアントのニーズや問題を十分考慮した上で、そのクライアントに適した支援を行った。

秋田は、7名に実施した。内容は、カウンセリング4名、学習支援2名、親支援1名だった。

水上は、9名（児童7名、親2名）に実施した。内容は、身体心理療法、サポートティブな面接、子育て支援だった。

吉村は、11名に実施した。内容は、SSTを含めた支持的遊戯療法だった。合計27ケース

② 心理査定

各種（発達・知能・心理）検査は、子ども【新版K式発達検査、WISC-IV、田中ビネー知能検査、描画をはじめとした心理検査 etc】、成人【WAIS-III、田中ビネー知能検査、ロールシャッハ・テスト etc】を実施した。

a) 新版K式発達検査

秋田（39）、加藤（30）、吉村（153）、クリニック支援（84）

合計 306 ケース

b) 田中ビネー知能検査（全訂版、V）

秋田（47）、加藤（65）、吉村（187）、クリニック支援（3）

合計 302 ケース

c) ウェクスラー式知能検査（WISC-IV・WAIS-R・III）

秋田（15）、加藤（19）、水上（4）、吉村（61）、クリニック支援（6）

合計 105 ケース

d) その他発達検査（遠城寺式・乳幼児分析的発達検査など）

吉村（４）

合計 ４ ケース

e) 質問紙法による心理検査（MMPI, YG, TEG, MAS etc）

加藤（２）, 水上（１）, 吉村（８）

合計 １１ ケース

f) 投映法による心理検査（HTP, PF スタディ, 風景構成法, バウム, ロールシャッハ etc）

加藤（４）, 吉村（１５）

合計 １９ ケース

g) 神経心理学的検査（フロスティック視知覚発達検査, ベンダーゲシュタルト検査, Rey 複雑図形検査）

秋田（２）, 吉村（１）

合計 ３ ケース

h) 発達心理学的検査（グッドイナフ人物画知能検査）

吉村（１２）

合計 １２ ケース

③ 集団精神療法

方法はそれぞれの集団の特徴を考慮し、SST、ロールプレイ等の認知行動療法や集団プレイセラピーを組み合わせ実施した。

今年度実施した小集団は、合計１０グループだった（隔週１回４０～５０分）。

センターぞう組：４グループ（４人／秋田, ５人／加藤, ６人／水上, ６人／吉村）

事業ライラック組：２グループ（６人／加藤, ６人／吉村）

事業シーランチ組：２グループ（１３人／加藤）

事業ヨシア組：２グループ（７人／秋田, ８人／水上）

(2) 障害児・者リハビリテーション

1. 平成 30 年度言語聴覚業務報告

言語聴覚士 矢田 麻貴

I. “言語聴覚士業務計画”に基づく実施報告

① 言語評価

医師の指示の下、コミュニケーションに関する客観的ならびに主観的評価を実施し、親への説明、相談を行った。評価後は必要に応じて指導へと移行した。

② 言語指導

30 年度末時点での言語聴覚療法対象児の総数は 117 名（むぎのこ利用児・外来含む）であった。

子どもの状態に応じて、40 分間の個別指導を主とした言語指導、構音（発音）指導、AAC（拡大・代替コミュニケーション）指導、摂食指導を行った。定期的に、医師を交えて親への内容・経過報告、方針再検討等の機会を設けた。

※3 月で終結また新規開始予定児や評価のみも含む。

③ 摂食指導

従事した対象児は 0 名。内容は一部評価および食事介助が中心であった。

また必要に応じて嚥下機能向上を目的に間接訓練や介助者へのアドバイスを実施した。

2. 平成 30 年度作業療法士業務報告

作業療法士 大坪光保 松田京

運動機能面（粗大動作・巧緻動作・協調運動など）・行動面・情緒面・認知面等に発達上の困難さがある子どもについて、医師の指示のもと評価し、1 回 40 分～60 分、週 1 回または 2 週間に 1 回、月 1 回の設定で作業療法（個別機能訓練）を実施した。また、作業療法評価のみを実施し、結果を診察時にお伝えして経過観察とする例もあった。

大坪 108 例 松田 85 例

(2) 親子教室

午前：週 2 回、午後：週 2 回、未就園児から市内の保育園・幼稚園に通っている未就学児までを対象

とし、親子教室（クリニック母子支援事業）を、医師、心理士、作業療法士、看護師とともに実施した。

(3) むぎのこ児童発達支援センター、児童発達支援事業むぎのこの連携

・月1回、落合作業療法士の来園訓練に合わせ、パンジー組の訓練対象児への関わり方を指導いただき、都度、パンジー組通園児を中心に、センター・事業それぞれの通園児らの運動機能・生活技能・認知機能の獲得、維持、向上を図るためそれぞれ個別に関わり、直接的または間接的に発達支援を行った。

・毎週金曜日に武田先生とともにプレイセラピーの実施及び各クラスに入り、子どもへの関わりについてのご指導・ご示唆をいただいた。また、法人に所属する児・生徒・者の発達・知能検査の結果を武田先生から通じて提供した。

(4) クリニック他職種との連携

医師、心理士、言語聴覚士、作業療法士、看護師と、都度、対象者についての報告・相談を行い、毎月のクリニック全体会議の中で情報交換をし他職種とのより円滑な業務連携が図られるよう努めた。

札幌市障がい児等療育支援事業

1. 施設利用状況

・訪問療育－6件，外来療育－0件，施設支援－201件， 計 207件

2. 支援業務

実施地域：札幌市全域，

内 容：訪問療育－家庭を訪問し、生活や育児に繋がる相談や訓練

外来療育－外来の方法で、生活や育児に繋がる相談や訓練

施設支援－関係機関に対して、療育に関する専門的技術支援や情報提供

3. 職員配置状況

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
心理士	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
児童指導員	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

4. 評価と展望

- ・札幌市内全域を対象に訪問療育、施設支援を実施した。
- ・相談者、施設のニーズに合わせ、細かく専門支援を実施した。
- ・他の地域支援事業との棲み分けが必要である。
- ・支援ニーズに対し、専任職員が不足し、増員が必要である。

当別町子ども発達支援センター発達支援専門職員派遣業務

1. 利用状況

(1) 支援回数

(単位 人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	1	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	6
前年度	1	1	1	0	1	0	0	1	0	1	0	1	7

2. 支援業務

(1) 業務

・当別町子ども発達支援センターにおける、発達評価および専門指導

- ・当別町子ども発達支援センターの指導業務における指導及びスーパーバイズ

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
心理士	常勤	1	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1

3. 評価と展望

- ・当別町子ども発達支援センターに対し発達評価および専門指導を積極的に実施した。
- ・当別町子ども発達支援センターのニーズに合わせ、細かく、柔軟に専門支援を実施した。
- ・当別町子ども発達支援センター関係者（保護者、児童館職員）への講義を実施した。

当別町職員指導業務

2. 支援業務

(1) 業務

- ・当別町子ども発達支援センターにおける、児童発達支援管理責任者に係る業務。
- ・当別町子ども発達支援センターにおける、相談支援専門員に係る業務。
- ・当別町子ども発達支援センターにおける、地域の児童の発達支援に必要な業務。

3. 職員配置状況

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理者													
児童発達支援管理責任者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
相談支援専門員	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

4. 評価と展望

- ・利用児童についての解決すべき課題を把握し、心身の状況、希望及びその置かれている環境を踏まえ、日常生活等の目標及び、当該目標を達するため具体的な支援内容等の個別支援計画の作成を行った。
- ・相談者の意志を尊重し、置かれている状況や環境に配慮の上、児童の能力や特性を踏まえて、地域において自立した生活ができるよう相談支援計画を作成し、関係機関との連携等を積極的に行った。
- ・乳幼児健診及び各関係機関でのケース会議に積極的に参加し、電話等での発達や子育てに関する相談やアドバイスをを行った。